1—1045

明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
大正元年十二月十五日發行

（每月一回十五日發行）

廓清

第二卷第十二號

呈　社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂　張

△廓清時言……會說
△社會の誤解を辯ず……安部磯雄
△風儀廓清の第一歩……山脇房子
△呪はれたる女……指田和郎
△改正娼妓取締規則……記者

雜誌之雜誌

◎ステツドとジプシースミス◎御旨を成させ給へ◎生命人造說報◎生命人造說の批評◎婦人の職業◎生活難◎殺人墮胎の增加◎朝鮮女の犯罪◎孝女おつれ◎四人肉を割つて未見の人を救ふ◎恐しい流行の哲學◎人口增殖法案◎不良小年の心理◎戰死者の遺族救恤◎結核患者の結婚問題◎乳兒の保護◎裏から見た家庭◎酒と煙草の中毒◎料理の栞◎臺所重寶記◎六千年前の葬式

△嗚呼子女敎育を如何……西鎭
△輿論の聲……秋田魁新報・北羽新報
△不貞潔が生みし悲劇……角谷和市
△廓清會紀要……記者
△會員の奮鬪……記者

東京　廓清會本部　發行

會員の義務

一　成るべく同志を糾合して會員の增加を圖ること。輿論の勢力を作るには同志の一人にても多からんを要す。

一　不用の雜誌は可成知人の間に廻付して主張の徹底を計ること。

右會員諸君が、自らのデューチーとして御實行あらむことを希望す。

出版書目

歐米諸國 **醜業公認制度廢止運動**　定價一冊　拾五錢　郵税貳錢

右は先般本邦に來援せられたるモーリス・グレゴリー氏の著書を飜譯せしものにして、安部磯雄氏の嚴密なる校閲を經たるものなり。自己の研鑽の爲め將又主張貫徹の爲め、最も有力なる武器なり。奮って購讀あれ。

廓清叢書第一卷 **公娼廢止論**　伯爵 大隈重信述

廓清叢書第二卷 **此羅災者を救へ**　廓清會理事 益富政助述

廓清叢書第三卷 **道樂者への強異見**　救世軍大佐補 山室軍平述

廓清叢書第四卷 **自由廢業を奬勵する理由**　救世軍大佐補 山室軍平述

廓清叢書第五卷 **廓清會組織の趣意**　廓清會長 島田三郎述

廓清叢書第六卷 **公娼制度と社會の風儀**　廓清會副會長 安部磯雄述

定價一冊各貳錢　郵税六冊迄貳錢

本會に所用の方は
東京神田區美土代町三丁目三番地
廓清會本部
宛に願上候

會費の納入

會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。

（注意）前項振替口座一九五三三番は益富政助氏名義にして廓清會所有にあらず、依て御送金の節は、必ず益富政助宛に御拂込相成たし。但し裏面に「廓清會費」と明記ありたし。

大正元年十二月十五日納本　一部定價金六錢
大正元年十二月十五日發行（毎月一回十五日發行）

編輯兼發行人　神田區三河町一丁目十四番地　益富政助
印刷人　神田區三河町一丁目十四番地　小林照雄
印刷所　神田區三河町一丁目十四番地　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓清發行所

廢娼論家肖像（其二）



法學博士 小河滋次郎氏

衆議院議員 增田義一氏

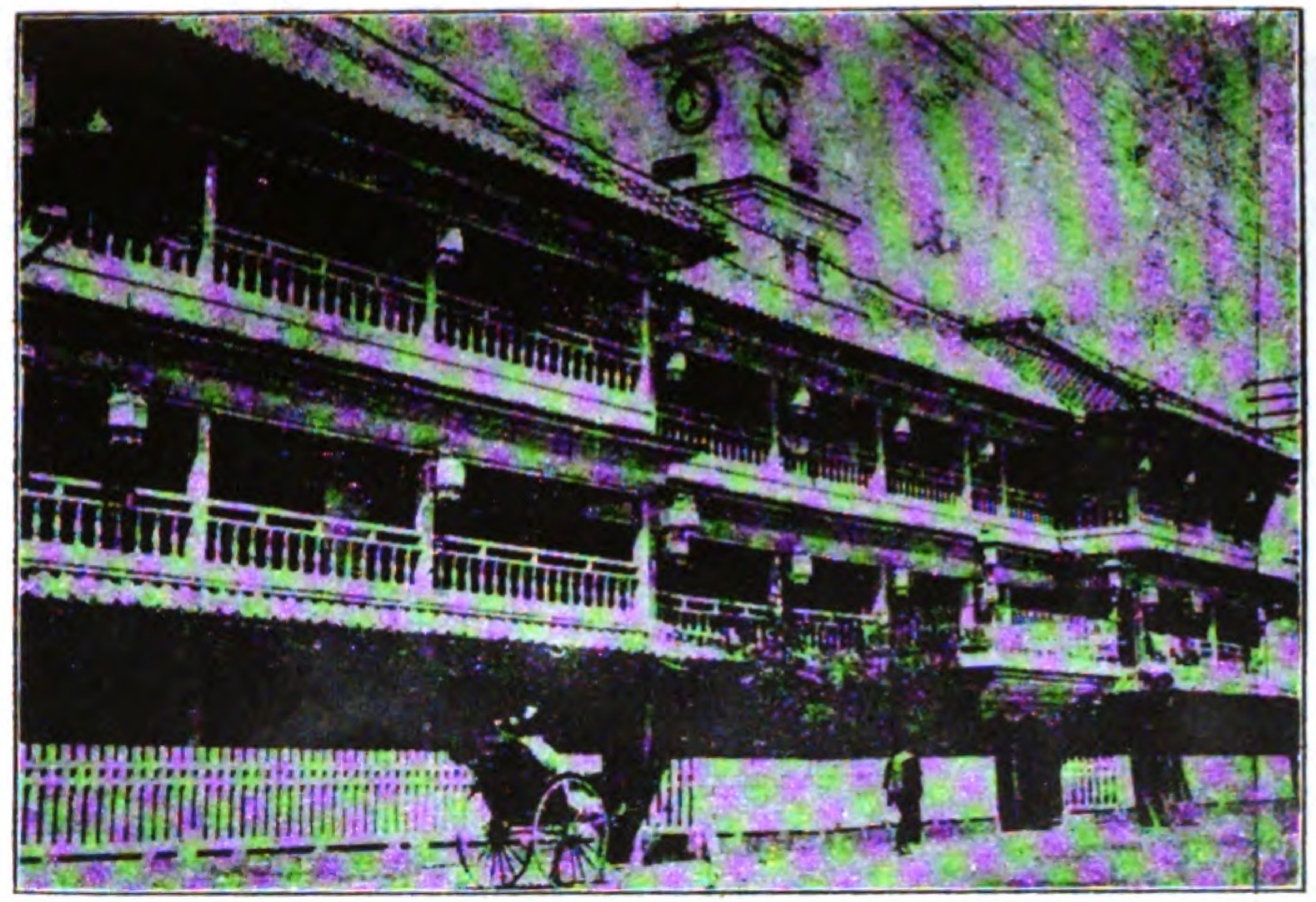
小崎千代子

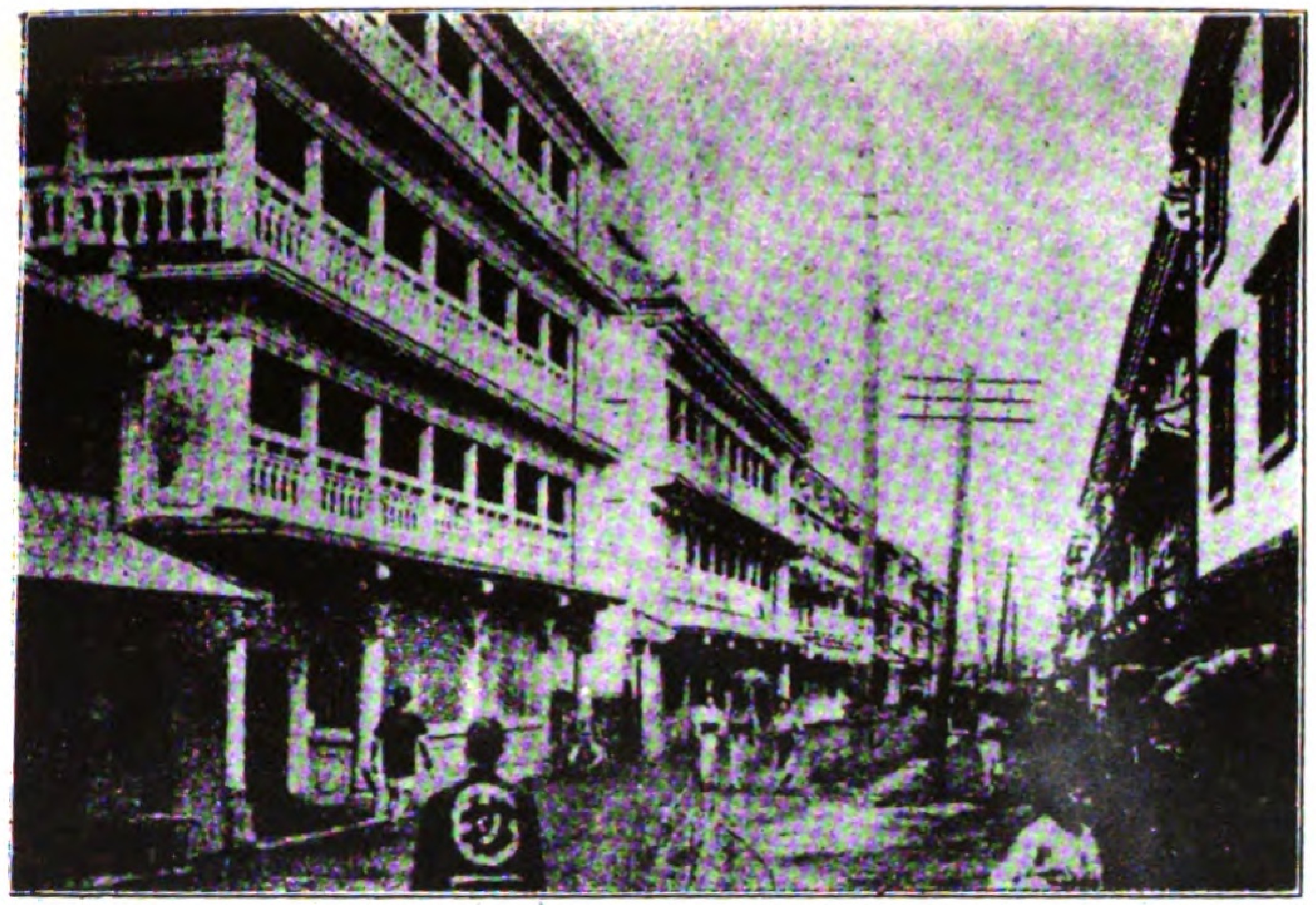
松村介石氏

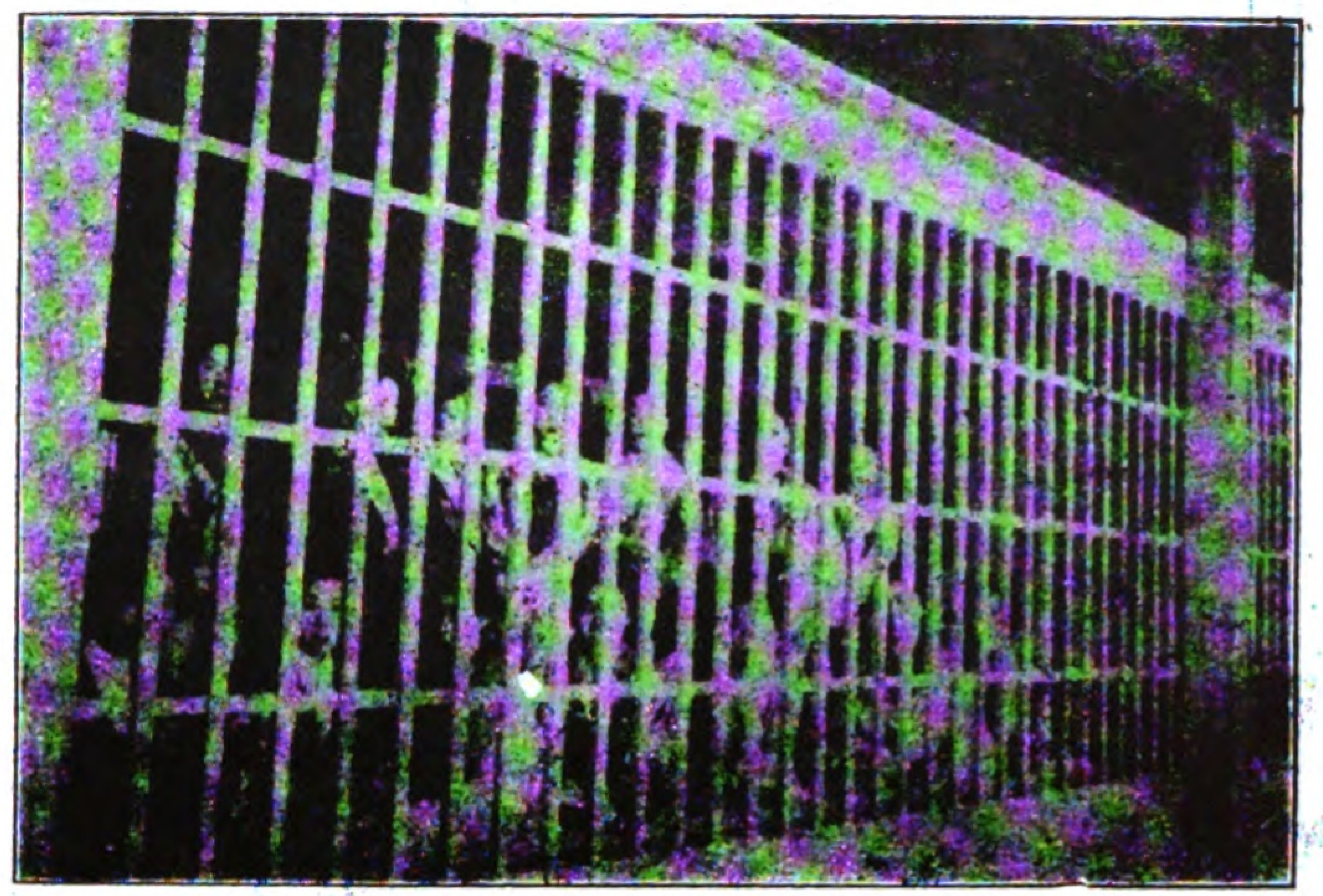
（順序不同）

英國觀光貴女團が視て泣きたる吉原

其外觀の如何に巍々として堂々たるか









其の内部の如何に動物園的なるか嗚呼之れ人間か獸類か

(市内の繪葉書店に於て賣りつゝある吉原,但此建物は大火前のものなるも今は既に如舊)



廓清時言

英國の貴女團吉原を見て泣く

報知子は『英國の貴女團吉原の大門を出て泣く』と題して左の報道をなす。

『同盟國の紳士貴女連が漏した日本感想談には頗る興味のあるものがある。今では世界の名物になつてゐる吉原の遊廓が去年の大火で丸焼になつた時日本政府でこれが再設を許可するか否かは、本家の日本よりも外國の方で餘程問題になつたらしく、之が實況視察として入京早々馬車を吉原に飛ばした一團の貴婦人がある。町々を見巡る間殆んど無言で隨行の者にさへ意中を測り兼ねしめた彼等はやがて大門を出離れるや否や、双の碧眼から珠の樣な涙を潸々と流しながら其感想を語つて曰ふ『假令裏面に如何なる理由があるにもせよ、同胞の半身たるべき婦人を斯の如く奴隷扱ひにし、而も之を公認して平然たる日本政府の氣が知れぬ。否代議士たる者の無識無定見に呆れざるを得ない。彼等の道德的標準は一體何所にあるのだらう』と。

嗚呼如何許り耻しき記事ぞ、實に冷汗背に流れざるを得ず。遮莫、我當局者の感想如何。

右につき我廓清會に於ては安部副會長自ら筆を執つて、之が爲に辯明書を送れり。これ遠來の訪客をして斯の如き感觸を抱きて歸らしむるに忍びざると、又國家國民の體面を思ふてなり。

公娼制度に關する米國の經驗

仙臺東北學院教授ファウスト博士は曰く

『米國に於ては千八百七十年、即ち今より四十二年前、セントルイ州に於て、始めて公娼を置きしに、立ろに娼妓の數三割四分を增加せり。而してこれ公娼也。密娼も亦之に比例して增加せり。蓋し政府猶且これを是認し、これを許可する程の事なれば、無論差支なき稼業なる可しとの思想を生ずるに至りし結果なり。

是に於てか四千人の婦人は立つて公娼廢止の建議案を草し新敎徒、舊敎徒、辯護士醫師など百五十餘名の有志者は捺印してこれが後援をなすに至れり。而してその結果は下院に於ては六と四との比例を以て、更に上院に於ては一に對する九十の大多數を以て、即ち公娼廢止の建議案は通過せるなり。爾來公娼なるものを置かず。否然のみならず、余の國に於

ては Prostitution なる語は餘りに汚はしきを以て之を用ひる事稀なり。而して多く Social Evel と云ふ。Prostitution は政府これを公認せざるのみならず、社會も亦之を公認せす。

日本語の世界語となりしもの

歐米にては其所謂 " Prostitution quarter " 即ち淫賣窟、魔窟などの代名詞として『吉原』と云ふ語を使用しつゝあり。嘗て東京市參事會員淀瀨寅二郎氏米國に赴く、彼地の某市長、氏に向て曰く『貴殿はこゝの吉原を見られしや』と氏驚いて聞糺し見れば、吉原とは魔窟てふ世界語となり居れりと。然れば大阪遊廓大火の際も、倫敦タイムスは大阪の『吉原』燒くと報道し、洲崎燒失せし時も獨逸にては頻りに吉原大火を喧傳せりといふ。要するに日本はこゝに一つの世界語を提供するの光榮を得たり。而かもそが、彼國人等が云も汚らはしとなせるプロスチツユーションクオーターの代名詞なるは情なき次第ならずや。

府市會議員吉原のために活動す

十二月五日都下各新聞は報じて曰く

『大火後の吉原遊廓も、此程全部再築落成したるより先頃同區選出の府市會議員を淺草公園の一直に招待し、火災後同廓に對する助力に就て感謝の意を表したる席上辰稻辨樓主山田喜久次郎より千束町なる銘酒店の跋扈に關して、警視廳へ取締を請願し呉るゝ樣請願したるより、當日出席したる各議員は馬道の鳥料理竹松に集合し、協議の結果抽籤を以て府市各議員より各三名宛を選出して、四日午前十時を期して警視總監に陳情する事となりたるが、此事を聞きたる千束町の地主家主連百餘名は、斯くては土地の滅亡を招く基なりとて、急遽同志を集合して、大正會なるものを組織し、三日夜區內の議員を藏前の植木屋へ招待し、淺草區の繁榮に關する大問題なれば總監への陳情を姑く延期されたしと懇談したるも、出席者少數の爲め何等の決定をも見ずして散會したれば、會員連中は多分四日府市會を襲擊すべく、今後の經過に依りて、或は血塗れ騷ぎを見るに至るやも計り難し』と。

世界最大の魔窟として有名なる、プロスチツユーションクオーターの再築落成！府會議員、市會議員の陳情運動！あゝ何たる淺ましき事なるぞや。況んやそが千束町掃蕩のため活動するならば聞こえたる話なれど、『吉原』保護のため也と云ふに至つては、その淺ましき振舞に眉を顰めざるを得す。殊に千束町黨の大正會の名稱に至りては實に之れ『大正』を侮辱するものとして責むるに價せずや。

再びエリオット博士の廓清意見について

過日エリオット博士は、警視廳岡澤防疫官長及び岡內外事主任と會見し、遊廓問題に就いて語りし際、博士は『檢黴の效力に就いてはなほ疑ふの餘地ありて存す。我が米國にても嘗て二三回この制度を實行せし事ありしが、何れも失敗に

終り、今はこの事なし。余の意見としては交接の度毎に檢黴するもなほ且危險なりと思ふ」と。

蓋しこれ博士一個の説にあらず。今や歐米先進國の最も進歩せる醫學者は皆檢黴無効論者たらざるはなし。我が當局者又須らく目を醒して檢黴制度に對する迷信より救はる可し。時既に來れり。今は眠より醒むべきの時なり。

宗教家と人道問題

日本に於ける穢多の廢止運動の如き、須らくこれ宗教家の手によつて起さる可き筈のものなりき。然かもこれ僅に政治家の手によつて成就せり。

由來我が國の宗教家は、正に己れの任として、その全力を傾注す可き、人道問題に對して餘りに冷淡過ぎるなり。彼等は多くは斯かる活きたる問題に對しては風馬牛なり。

然れども新時代の宗教家は斯くて滿足するを得可きか。吾人は我が國の奴隷解放問題たる、公娼廢止問題、即ちこの大なる人道問題に對して宗教家の蹶起を望まざる可からず。これ吾人のために望むにあらず、宗教家諸君のために、諸君自身の使命のために望む也。

僧侶と娼妓の教化

今日のところ、貸座敷業者若しくは娼妓を教化するに、最も便宜を有せるは云ふまでもなく佛教の僧侶諸君ならずんばあらず。

諸君は法事のために行き供養のために行き、葬儀のために常に廓内に出入す。かゝる機會を利用して、如何にこの商賣の自己のためにも亦社會のためにも罪深き極みなるかを説き聞かせたらんには、必ずや彼等の中よりも多少悔改めて善に歸るものある可き筈なり。

本文の記者嘗て滿洲に在り、一日本願寺の布教師と會す。余彼に向ひ、どうかして驅黴院に説教に行きたきものなりとの希望を述べしに、彼笑つて曰く『自分も嘗つて遊廓内の病院に説教に行きし經驗を有するものなるが、只困るは説教の千篇一律に流るゝ弊なり。成可く稼業を精出して主人に對しては從順に、客に對しては親切にあらはねばならぬと教ゆる外に別段教ゆべき事もなし』と烟草の煙スーッと吹きぬ。余は呆然として應ふるところを知らざりき。嗚呼。

矛盾の甚しきもの

世に娼妓必要論者あり、不必要論者あり。而して娼妓必要論者は娼妓の味方にして、不必要論者は其敵たるの觀あり。而かも事實は全然之に反す。見よ娼妓のために滿腔の同情を寄せ、之がために泣き、これが救濟を絶叫するものは、娼妓不必要論者の救世軍及び廓清會同人にして、娼妓を苦しめ、之を虐め、之をさいなみ、殆んど之を慘殺するものは娼妓必要論者なり。樓主然り。遊冶郎然り。或は警察官すらまた然る事あり。不思議なる哉。

無政府主義を鼓吹するに等し

洋行歸の高襟先生、鼻をうごめかして曰く、『西洋に於ける男女の關係は日本以上に紊亂せり。殊に佛國巴里、英國のピカデリーの如きは、百鬼夜行、殆んど言語に絕す。風紀廓清は外國にてこそ必要なれ、日本にては左程騷立てる程の事にもあらず』と。

斯くて風教論者の迂愚を笑ひ、國民を惑はして永く其淫行に就いて自覺を與へざらしむ。汝等は西洋の風俗が廢頹せば日本もこれに倣ふて廢頹しても可なりと思ふや。若しそれ善くも惡しくも只西洋の如くさへありたらんには可なりとせば何ぞ進んで無政府黨を喜んで輸入せざる。これも亦西洋に於ては中々盛なるにあらずや。

愚かなるものよ、吾人の主張するところは西洋にありやなしやにあらず、この制度の善なりや惡なりやを論ずる也。況んや佛國の如きは今や最も嘆かはしき狀態に陷りつゝあり。一昨年(一九一一年)に於て佛國の人口は三萬四千八百六十九人の減少を見たり。之れ日本に於て靑森及び秋田等の都會が一時に全滅したるが如きものなり。これ實に彼國の男女道德頹廢の結果なるを知らずや。而して平然としてこの佛人の弱點を學ばんとす。これ實に盲人の手引する盲人也。

張見世を撤廢せよ

名古屋は頗る淫風の盛なる土地なり。然かも尙其貸座敷中上等に位するものは、決して張見世をせず。更に山陰道の松江に於ては上下の別なく一切張見世を禁じつゝあり。故に一見何れが其遊廓なるを知り難し。若し夫れ全國の遊廓が此張見世撤廢を斷行するのみにても風敎のためには大なる影響を與へん。吾人は先づ之を東京の當局者に囑す。若し吉原に於て全然張見世を撤廢せむか、先づ第一に之を見●●●●●物に行く者はなきに至るべく、從つて風敎上の利益の大なるは申すに及ばず、外人をして彼の如く悲慘の思ひに堪へざらしむるが如き事もこれなくしてすむべきにあらずや。乞ふ張見世を撤廢せよ、これ最も易々たることにあらずや。

積夜具の見世物

二の酉の景氣と題して東京朝日新聞は報じて曰く

『お酉樣の影響で淺草公園は大景氣、參拜を終つた群衆の雪崩は二派に分れて、一は吉原廓内に流れ込む。今日のみは女が步いても不思議がられぬ日とて、角海老前の花魁の道中人形と、積夜具の前は女の山を築いて居た。夜になつては職工に若衆で、千束町の通は身動も取ぬ雜閙であつた』

『女が廓內を步いても不思議がられぬ日』といひ、『花魁(淫賣婦)の道中人形』といひ『積夜具』といふ。

讀者之等の文句に接して果して如何の感が起さるゝ、殊に最●●●●●●●●●●●も醜怪なる目的に供せらるゝ夜具を往來側の店前に積み重ね、樓主は其數多きを誇り、觀るものは之を感心す、之れ東洋第一の文明國民、而かも其帝都市民のなす所也。(珠川)

議論

廢娼論に對する社會の誤解を辯す

廓淸會副會長
早稻田大學敎授　安部磯雄

（一）反對論者の錯誤

吾々が廢娼論を唱導し始めてから既に大分の時日を閲した。世人は大凡吾等の主張を了解してもいゝ頃である。けれども世の中といふものは案外神經が鈍いもので、中には未だ廓淸會の存在をすら知らない者がある。或は又知つて居つても隨分間違つた見解を有して居る者が尠くない。即ち我々の主張に反對する存娼論者でなくて、自分勝手に任意な標的を作へて、我と我的を射つてゐる人があるのは、甚遺憾な事である。

一體我々の主張する處は公娼制度といふ表面に現はれたる制度を廢止しなければならぬといふのであつて、私娼迄も悉く撲滅して了はうとするのではない。勿論公娼にまれ私娼にまれ之を剿蕩し盡さむ事は吾々の翹望して止まない處ではあるけれども、それは到底人間の本性の變化せざる以上實行する事の覺束ない問題である、でないならば道德觀念の偉大なる發達を見るでなければ行はれない問題なのである。されば吾々は此理想に向つて猛進せむとするものではあるが、併し乍らそは理想としてゝあつて、容易に實現し得べからざる事位は勿論心得て居る。之に反して公娼制度は全く其性質を異にし其文字の示すが如く、醜業を營む事を認容する制度である。現に我日本には之を職業として政府に屆出で、政府は營業稅を徴收してゐるのであるが、我々の絕叫する處は即ち此制度の撤廢に外ならぬ。賣春の事實を掃滅しやうといふのではない。此點が即ち世人の動もすれば履違へる岐點であつて、難するものが我々を射むとして、實は己れの作れる人形を射つてゐる所以である。

公娼制度を廢止すれば、私娼が盛んになつて弊害が增加するであらうとか、黴毒が蔓延して困るだらうとかいふ反駁ならば、其研究に不備があり、其論理に透徹せざる處があつても、兎も角も吾人に對して射つた矢であるが、公娼廢止を娼婦廢滅と勘違ひをして弓を引かうとする者は、既に全く脇道に這入つた人で、己れの錯覺を以て妄りに他を誹謗せむとする愚に陷つてゐるといはねばならぬ。如何に條理の整然たるものがあり、如何に其ロヂックは堂々たるものであつても、畢竟並行線上の議論で、何處迄行つたつてぶつ突かつて是非正邪を檢する事は出來ないのである。此頃種々の雜誌などに現はれた說を見ると、どうも斯うした見當違ひが大分ある

やうに思ふ、殊に斯ういふ問題には最も正當なる意見を有すべき學者が尙且つ此誤解に陷つてゐるのは、我々の遺憾に堪へざる處である。

《一》海野氏と絕對論

此間『東亞の光』に揭げられた海野幸德君の說の如きも其の一例であつた。其標題も『人類の理想病と廢娼問題』と云つたやうな事であつたと記憶してゐるが、人類學に深き興味を有つて專門に研究しておられる同君までも、我々の論點を誤解して勝手な論評を試みられたのは遺憾千萬な事であつた。

海野君は吾々が一種の理想病に罹つて居るやうに思はれてゐるので、公娼を廢止するといふやうな事は全く一の空想に過ぎない。若し今日の社會狀態に於て之を實行したならば害こそあれ決して益はない、人類學上より云ふても娼妓を全廢するなどゝいふ事は以ての外であると論じておられる。これは明に我々の立場を誤解した議論である。我々の叫ぶ廢娼の意味は公娼制度の撤廢であつて、此制度の廢止は海野君の人類學と大した關係のあるものとは思はれない、海野君と雖も社會に娼妓の存在する事を望まれる譯でもあるまい、況んや假令私娼であつても漸次之が減退撲滅を圖るといふ事こそ人類の進步ではあるまいか、唯之は大なる道德の力を借りなければならぬといふのであるから、何百年、何千年かゝるか殆んど豫知する事も出來ないのであるけれども、公娼制度といふものはいつでも之を止める事の出來るものである。笑婦の跡を絕つといふ事は至難の事であるけれども、制度の廢止は唯々政府の一斷あるのみであつて、可能不能の問題ではなくて利害の問題に過ぎないのである。絕對的ではなくて双對的の問題である、比較論究すべき問題である。氏はこれを誤つて可能不可能の問題として取扱はれたのであるから、我徒の主張とは關係のない議論となつてしまつて、自己の錯覺に因る標的に弓を引かれたに過ぎなかつた。

《二》松崎氏と緩急論

又中央公論には朝日新聞記者の松崎天眠君が、『倫落の女』といふやうなものを書いておられたやうである。松崎君は隨分醜業婦の內部の事をも研究されたやうであるが、或場合に斯ういふ事を云はれてゐる。『今日の公娼制度の有樣は實に怖るべきものである。又私娼になつて居る所の婦人の境遇といふものは實に憐れむべきものである。然るに廓淸會などの人が此私娼を救濟する途を講せず、解決せずして公娼などの事を八喧しく云つて居ることは、恰も小い魚を捕へて大きな魚を逃してゐるやうなものだ』と云つたやうな意味を論じて居られた。がこれも我々の立場より見れば大なる誤解である。

それで我々は今此處に一の實例を擧げて我々の立場を明にしたいと思ふ。昔亞米利加で奴隸制度を實行して居つたといふ事は、或意味から云へば今日の勞働者の間に行はれてゐる所の奴隸制度と比較して却つて其弊害は少くないかと疑はるゝ位である。私は度々勞働問題を唱ふる人々の說を聞いたの

であるが、今日の下層勞働者は其悲慘なる事に於ては寧ろ昔の奴隷制度よりも甚しいといふのである。昔の奴隷は勿論慘酷なる取扱を受け、或は主人に賣り飛ばされ、若くば其命を奪はるゝといふやうな事もあつた。けれども主人は牛馬の如く使ふとは云ひ乍ら、矢張り其必要だけの食物や着物は與へたのである。今日でも牛馬を使ふ人は矢張り自分の事を思ふから自己の利益上からとは云へ、牛馬を慰めてやらなければならぬのであつて、それと同樣に昔の主人は自分の利益上相當に奴隷といふものを保護し、又之を可愛がつたのである。然るに今日の勞働者はどうであるか、實際金がなければ飢ゑるといふより外はない。其飢ゑるといふ場合になつても資本家が金を呉れるといふ事はない。資本家の眼から見れば勞働者が若し食へなくて飢え死んでも直に他から補充する事が出來るのである。いくらでも新しく傭ふ事が出來るのであるから、彼等に取つては何等の痛痒も感じない。昔の主人は自己の所有財產であつたゞけ、奴隷が死ぬやうな事があつては財產を減す譯なので、牛馬が死んだと同じ意味に於て主人は損害を蒙るから、假し人格を認めない迄にも彼等は之を保護する必要に迫られてゐた。

故に一言にして云へば、今日の資本家が勞働者を見るのは、昔の主人が其奴隷を見るよりは利害關係のないだけ冷淡であるといふ事實を生ずるのに不思議はないのである。昔の奴隷に飢え死ぬといふ憂はなかつたが、今日の勞働者には其危險が時々刻々迫つて居るのである。

(四) 人道問題としての公娼

此一例を以て見れば恰も奴隷制度は今日の公娼に當り、今の勞働者は松崎君の所謂私娼に該當するのである。若し救助の場合から云へば奴隷制度を廢するよりも、今日の勞働者を救ふ方が或は急を要するのであるかも知れぬ。無論私共も今日の勞働者の地位を以て滿足する事は出來ぬのであるから之を救はねばならぬ事は無論の事である。乍併之は決して一朝一夕に出來る事ではなくて多くの歳月を要するものである。之が爲には資本家の道德心も變つて來なければならず、社會の風潮も變つて來なければならぬ。併し奴隷制度といふものは、假令其有樣が今日の勞働者の如く甚しくないとしても、之は單に經濟問題ではなく人道問題である、假令彼等の狀態が今日の勞働者よりもいゝとしても、一度何かの間違が起れば彼等は賣飛ばされる事もある、命を奪はれる事もある、自由といふものがない、不平を訴ふる途がない、寔に危險な位置に立つて居るのである。彼等は噴火山の頂に繫がれてゐるのである。いつ其恐しき焰の中に包まれ去らるゝか分らない。之は全く我々の眼から見るならば看過すべからざる人道問題である。そこで斯かる制度は社會として一日も存在する事を許さないのである。勞働者の位置を改善するといふ事は一朝にして爲すことは出來ないのであるが、奴隷制度といふものは之は全く世人の考一つで廢する事も出來る。現に今日は我々の社會から奴隷制度は取り去られて居るのである。之は私

は確に絶好なる實例であらうと思ふ、吾々の立場を明にするのには極めて適當なる所の事實であらうと思ふ。

吾々が公娼制度の廢止を唱へて居るのも畢竟するに人道問題としての奴隷制度を廢するやうなものであつて、こは我々が直に實行し得る事であるから、先づ此方面に向つて全力を注ぐのである、若し此事が成就したならば我々は又更に氣永く私娼問題を研究しなければならぬのである。之れは恰も奴隷制度がなくなり、更に今日の勞働者の位置を改善する事に努力しなければならぬのと同様である。斯くの如く對比して來ると、自ら我々の主張の根據が明白になつたと思ふ。即ち約言すれば、如何に私娼の狀態が慘憺たるものであると云つても、之を救濟するといふ事は容易な事ではない。順序上先づ今日の公娼を廢止して然る後私娼問題に及ばんとするものである、況んや公娼なる職業の認容すべき性質のものなりや否や、敢て玆に贅しないが公娼問題は單に男女間の風紀問題としてのみ取扱ふべきものではない人道問題として攻究する必要がある、此點から觀ても海野君の説も松崎君の説も根底に於て誤解があるやうに思ふ。

殊に斯くの如く双方の意見を並べて見ると海野君も松崎君も廓清會の事業に對して同情こそあれ反對のあるべき理由はないと思ふのである。勿論我々は兩君の説を唯無暗に反駁せむとするものではない。偶々兩君の説の公にせられたのを幸ひ、斯ういふ風に我々を誤解してゐる人達に對して、一言廓清會の爲に辯じた譯である。

風儀廓清の第一歩

山脇高等女學校長　山脇房子

近年新聞などでよく不良少年少女に關する記事を見るやうでございまして、而かもそれが、今日の生活に困ると云ふやうな下流に少く、多數は中流の家庭に育つたものだと申すに於ては、一時人々の意外とするところがあつたでございませう。

何故中流の家庭からそんなものが出るかと云ひますと、中流だからと申すのでなく、つまり上中流の家庭にはその圓滿を缺いたものが多い、それが大なる原因となつてるのでありませう。例へば家に歸ればいつも兩親が喧嘩をしてるとか、姑小姑が嫁をいぢめて一向に家内の折合がつかぬとか、いづれにしても家庭が面白くゆかない。かう云ふやうな家庭の子供は自然樂しみを外に求めるやうになりやすいのでございます

○

然らば子供の敎育に無頓着な、不愉快な家庭の主婦はどん

な婦人が多いかと申すと大底は無教育ものか、さなくば怠惰者で、家庭が何であるか、教育が何であるか、一向に辨へて居らぬ、よし辨へて居つても、それを行はぬ主婦の許に多く不良少年少女ははぐゝまれて居るのでございます。

世間では兎角女子教育を非難したがりまして、やれ女教員が萬引をするんだものとか、やれ女學生が墮落をするからとか申しますが、成程萬引をしたのは學校の教員であつたさうです、併しよく聞いて見ますと、初めのは裁縫の教師で、後のは體操の教師でした、これ等技術の先生は、その專門の技術には長じて居ませうが、教員としては學識に乏しい、精神教育に缺けた側のものが多うございます。

教育と申すのは技術を云ふのではありません、人の人たる資格卽ち人格ある人をさして教育ある人といふものだといふ事を忘れてはならないのです。

○

尤も女子教育非難者の議論も參考とす可き價値のないでもございません。

第一、昔は女と云ふものは少々の無理を云はれ、どんな事があつても只ハイ〳〵と夫に從つて居たものであるが、今の教育を受けた婦人は然はいかない、却つて場合に依つては夫の言行に反抗するやうな傾向もある。卽ち盲從しなくなつた。

第二には、男子化して、男子の職業の範圍に侵入する。換言すれば、男子の職業を奪ふ傾向が出來る。第三には、生殖力の減少、卽ち子供を多く產むと容色が衰へるからと云ふのでフランスの婦人の如く避姙をするものが多くなる。第四には學問をして色々な事を知つて來ると、臺所なんかに燻つて居るのが、如何にも馬鹿々々しくなつて來て、兎角主婦の任務を怠り勝になる。

以上の諸點から家庭は素より、社會國家に及ぼす影響は恐る可きものだと云ふのが、彼等の論點のやうでございます。

○

されぱと云つて、男子のみは日に月に進みゆく世の中であるのに、その半身たる可き女子を昔のまゝ、無智のまゝに捨て置くと云ふのは、まことに受取り難い話でございます、先づ手近い例で申しましても、夫の伴侶たる可き妻が、何を話されても——或時は夫の職業に就て、また或時は世間の出來事につき話されても解からないと云ふやうでは、到底面白い家庭が出來よう筈はないではございませんか。

家政を司るばかりが婦人の全くではありません。それと共に又、時と折とに依つては、夫の話相手となり相談相手となり、少くとも夫の話の解る位には是非教育を受けておく必要があるのでございます。

○

併し女子の方で、學問をすれば獨立自活をしなければならないものゝやうに思ひなして居るのは大なる誤でございます

もと〳〵世に男女と云ふ異つたものがある以上は、社會は男子のみ、或は女子のみでは成立するものでなく、一方の足らざるところを一方で補ひ、兩々相携へて、はじめて圓滿に

行けるものだとは、深く考へる迄もなく明かに認められるのでございます。

だから學問をしたからと云つて、女子が獨身說を立て、自活をしなければならぬと云ふやうな態度をとるのは大に間違つた考で、婦人の學問をする目的はそれではないのです。卽ち女らしい、而かも主婦として、妻として母として、恥しからぬ立派な婦人になると云ふのが敎育を受ける婦人の大主眼でなければならないのでございます。

キャット夫人が『私共は婦人に參政權を與へよと叫ぶけれども、男子を敵とするのではなく、只婦人が、婦人の步む可き道を認めて貰ひたいからである。

一體婦人は四十歲までは子女を敎育したり家政の務めに追はれなければならぬけれども、四十後になれば子供も大きくなり、家政上餘裕も出來る境遇になるから、その後を社會のために働くやうにしたいと思ふが、これには高い敎育を受け、男子と共に進んで行く丈の素養をもつて居なければならぬ』と申されましたが、實に道理至極なお話だと思ひます。畢竟女子が敎育を受け、智識を磨くはこの目的であらねばならないのです。

○

さらば如何にして家庭を淸く樂しくし、子供を正しく育て、引いて社會風儀廓淸の一端を擧ぐ可きかと申しますと、誰でも申します事で、兩親自らが、その言行動作を愼しみ、己の一擧一動が、子女の模範たることを忘れぬやうでなくてはなりませぬ。

或敎育家が、敎育は口でするよりも目でする方がよいと申されましたが、子女の敎育に無頓着な主婦の家庭になりますと、兩親自らが、子供の前で、何でもお構ひなく、云ふ可からざる言、爲す可からざる行をなして、敢て惡るいとも思つて居ないやうです。トルストイはかう云ふ事を申しました。『子供等をねかしてから初めて自分等夫婦の體になる』と、これ位自分の言行について、子供の前に責任を感ずるのは、心ある親として至當の事でございます。

○

支那では胎敎とさへ云ひ、日本では三つ兒の魂百までと申しますが、眞に味はう可き語ではございませんか。

先年渡來された英國の敎育家ミスヒュウスは『英國では十二三歲だといふ』と申されましたが、どうも日本の三つ兒の魂と云ふの〻方が實際に近いかと思はれます。

又子供が母親の膝に抱かれて乳を吞みながら見上ぐる、母親の顏の感化は實に大なるもので、その時、母親が、いつもニコ〱して快活であると、子供もそのやうな溫和な子供になり、これに反していつも怒つた顏をして癇癪を起して居ると、その子がまたプリ〱する神經質の子供になると申しますが、實に母たるものは、乳房を含ませるその時已に自分の責任を自覺しなければならないのです。

而してこれが女の手になる風儀廓淸の第一步ともなるのでございます。

呪はれたる女

救世軍中校
婦人ホーム主事　指田和郎

（一）

一二年前の展覧會で、塵塚の埃を寫生した油繪を見た。中ば朽ち懸つた木の葉、壊れた土器の破片等が、堆高く山をなして居る眞中に、鮑の貝が一つ、無雑作に投げられてある。其他には何もない。題は「後園の一隅」とかいつた樣に記憶して居るが、若も之が實物であつたならば、誰一人顧向きもせなかつたであらう。而も一度畫布の上に載せられたお庇で、斷ず多くの人の視線を惹いて居つた。此繪を見た自分は其時世の中は萬事斯んなものだと思つたのである。

此に一人の女が居る。年は廿八歳で、ツヒ三週間許前に頼つて來た者である。青ざめた顔色と、肺病患者にでもありさうな寂しい襟元とは、見るからに憐れを催さしめるものがある。だが其片腕を疊に突いて横尻に坐つた埒もない姿と、耻も外聞もあるものかといつた樣な其暴々しい物言ひとに接するならば、折角の同情も何處にかいつてしまう如く感ずるであらう。美化せられ、詩化せられたる高壇の婦人救濟と、事實海に千年山に千年の阿婆擢れを對手にするのとでは、其間に尠からず趣の違つて居ることを感ずるに相違ない。

併し乍ら其は未だ皮相な觀察である。掃溜の塵にも、其處に觀る眼で見るならば捨て難き美が隠れて居ると同樣、箸にも棒にもかゝらぬ淪落の女にも、其處に大なる同情に値すべき何ものかゞあり、何が酔狂でやつて居るのか解らぬ面倒な事業にも、其處に言ひ知れぬ樂しみがあるものである。

（二）

廣い世界に誰一人構つて呉れる者のないといふ世の敗殘者を見る時、其感じに三通りの區別がある。即ち最初には何の事はない只氣の毒に思ふ、可愛想に思ふ。所が今少し接近して彼等の蹂躪せられたる性格を窺ひ、其利己一點張な、恩知らずな、而して唯々眼先の利害にばかり無宙になつて居る樣子を眼の當りに見る時、此樣な連中に何を爲てやつた所で、果して其だけの價値があるか否かを疑ふ樣になるといふよりも時には事實憎らしくなるのである。其處で先の熱心が變つて冷淡となり、同情は轉じて無頓著となる、多くの所謂篤志家は此位で大抵脈をあげてしまうのである。さり乍ら若も諸君が今一歩進んで、彼等の性格が斯く迄突き壊され、彼等の境遇が今日の落魄を見るに至つた抑々の原因と、及び其經路

とを詳らかに考へて見らるゝならば、所謂「慈悲の眼に憎しと思ふものぞなき、罪ある身こそ猶憐れなれ」の感を爲さずには居られないであらう。

（三）

其處で今假に此に居る女に就て、其薄命なる過去の經歷を極く大略語つて見やう。但し私共は徒に個人の秘術を公に發表することを好まない、若も之を爲して憚らないといふならば、夫は〳〵幾らでも語り得ることはある、さり乍ら頼る邊のない彼等が、信頼して打明けた事實を、「此處だけだから」といつてきゝとつた事を、素知らぬ顏して筆に上せる氣にはどうしてもなれない、夫故今此處に語らんとして居る物語に於ても、多少靴を隔てて掻くの思ひは必あるに相違ないが、其邊は大目に見て頂かねばならぬであらう。

此女は生れは神奈川の在で、生みの母が連て出たのであるともいひ、また然うではないともいふ。何れが眞か本人も知らない。兎に角四歳の年に祖母の手に渡され、六歳迄養はれた。其後母が緣付いたので連子となつて其家に行き、十六迄はどうやら斯うやら其家に育つたのである。スルト杖柱とも頼りに思ふ母親が此世を去ることゝなり、卅五日も經たぬ間に早くも奉公に出されたといふ。其からは彼方此方と奉公して歩き、或家には四年も續いて居たことがある。軈て廿三歳の年に或人の世話で緣附くことゝなり、暫くは何事もなくて濟んだが、程なく五歳になるのと三歳になるのを遺て何處にか預けてあつた繼子を引取るといふことになり、始めて所謂仲人口に欺されたのであるといふことが分つたのである。所が段々近所の話等きいて見れば、亭主といふのは以前から其邊切つての仕方のない大酒呑であつたといふことが解り、殊に其頃からして一旦抑へて居つた酒癖が再び頭を擡げ、毎夜の如くに新宿の惡所に通ふ、家に歸れば何彼と口實を設けては三日にあげず擲たり蹴たりするのである。但し無垢な本人は里に歸つた處で父は違うし、碌な事のあり樣筈もないので「嫁に行くとは斯んなもの」と唯獨り諦めては、出來る丈機嫌を取る樣にして居たのであるが、亭主の與業は一向直る景氣もなく、終に或日のこと有りもせぬ事に邪推を廻して言ひ懸りを始めた揚句、職業用の金槌で女の頭を碎けよと擲つたのである。

（四）

二所ばかり傷が出來て顏中腫れ上るといふ始末、餘りの仕打に生れた許りの子供を脊負ひ、近所の交番に行つて一什始終を巡査に物語つたが、巡査も「彼は此邊でも皆持餘して居る人間だから」と尠からず本人に同情を寄せ、直ちに說諭に來て吳れた所、其間に男は風を喰つて姿を隱したのであつた。其處で據なく二人の子供を引連れ、繼親の家にと戻つては來たが、因より長く居られる譯もない。種々と思案を巡らした上暫く同業の家に厄介になつたけれ共之も酒でも飲めば、忽ち邪魔にして管を卷く種とせられるが嫌さに居堪まれず。

百計盡きて格別何の考も出なくなつた所から、大きい方の子をさる知人の許に預け、小さい方の子供は近所の桂庵に頼んで人に呉れてしまひ、自分は其養育料を出す爲にといふので東京から十里許り離れた所に、宿場女郎として身を沈めるに至つたのである。

（五）

然り乍ら不遇なる彼女の流離轉變は、未だ此にも終らなかつた、樓主といふは其町でも類のない剛突張で、娼妓を虐待するといつたら實に話にも何もなつた者でない。終に餘りの艱さに氣の合つた客と、手に手を取て逃げ出した、そして東京のさる所に間借りか何かして姿を潛めて居つたが、どうしたことか間もなく在所を突とめられ、引き戻されて再び樓に出されたのである。而も連れ戻されて警察に出た時、自身警官の前で廢業をしたいと願つたが、一向取合つても呉れなかつたといふ。程なく復も樓主の虐待に堪兼ね、今一度樓を脱け出した。其後のことに就ては今尙書くべき時が來て居ない樣に思ふ。

世には何故なれば斯くも氣の毒な者が多いのであらう。彼女に向て「子供に逢いたいとは思はぬか」と問へば、彼女は横に首を振て否と答へる。「彼んな人間の子で、子供も何れあなるのかと思へば、逢ひたいとも何とも思ひませぬ」と彼女はいふ。母心をさへも失つて居るのである。斯ういふ悲慘な話が復とあつたものであらうか。

東京婦人ホームには此に述べた樣な經歷の女、或はより以上の波瀾曲折に富むだものが目下廿名許り一つ家根の下に居る。每朝食後に約一時間程聖書に基いて基督敎主義の訓話があり、晝は二時間每に十五分位の自由時間を置いて、裁縫、編物其他の家庭的勞働に從事せしめ、掃除、炊事等は一週間交替で各自がやつて居る。金曜日は大掃除、土曜日は自由時間と定まつて居り、入浴は水曜と土曜の二回、又日曜には一回乃至二回近所の小隊(集會場)に出席せしめ、一般公衆と同じ説敎をきかしむる事になつて居る。而して收容期間は三ケ月乃至六ケ月といふことになつて居り、順次女中奉公其他の方法を以て自活の途に就かしめて居るが、斯る間から全く以前と違つた純潔の生涯に入りたる喜ぶべき實例が引續き顯はれて居ることは何とも感謝に堪へない次第である。

私は先頃私共の受持つてゐる救世軍の東京婦人ホームに就て何か話をするやうにと、廓淸會の研究會で求められ、出來得る限り一通りの御話を試みたのである。スルト其話を廓淸の誌上に出す樣にとの御頼みであつた、そこで此に廻らぬ筆を驅つて此一篇を綴つたのである。

娼妓取締規則改正さる

敢て廓淸會運動の効果といふ譯ではないが、時勢の進運に鑑みてか、内務省當局者は三十三年以來手をつけなかつた娼妓の取締規則を、本月六日内務

省令第十七號を以て改正し、娼妓の自由を束縛し人格を無視する諸種の行爲に對して殆んど從來の四倍（二十五圓以下の罰金又は二十五日以下の重禁錮を、三月以下の懲役又は百圓以下の罰金に改めた）の重罰に處する事となつた。之によりて娼妓の自由は從來より大に保障せらるゝ事であらう、吾人は喜びに堪へないものである。只此際吾々が切望して止まない事は直接運用の局に當る警察官が之を空文に終らしめるやうな事なく、主務者の意を體して之が勵行に努め娼妓を擁護せられむことである。

第一條　十八歲未滿ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス

第二條　娼妓名簿ニ登錄セラレサル者ハ娼妓稼ヲ爲スコトヲ得ス

娼妓名簿ハ娼妓所在地所轄警察署ニ備フルモノトス

娼妓名簿ニ登錄セラレタル者ハ取締上警察官署ノ監督ヲ受クルモノトス

第三條　娼妓名簿ノ登錄ハ娼妓タラントスル者自ラ警察官署ニ出頭シ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ之ヲ申請スヘシ

一　娼妓ト爲ルノ事由

二　生年月

三　同一戸籍内ニ在ル最近尊屬親、尊族親ナキトキハ戸主ノ承諾ヲ得タルコト若シ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ其ノ事實

四　未成年者ニ在テハ前號ノ外實父、實父ナキトキハ實母實父母ナキトキハ實祖父、實父母實祖父ナキトキハ實祖母ノ承諾ヲ得タルコト

五　娼妓稼ヲ爲スヘキ場所

六　娼妓名簿登錄後ニ於ケル住居

七　現在ノ生業但シ他人ニ依リテ生計ヲ營ム者ハ其ノ事實

八　娼妓タリシ事實ノ有無並ニ嘗テ娼妓タリシ者ハ其ノ稼業ノ開始廢止ノ年月日、場所、娼妓タリシトキノ住居及稼業廢止ノ事由

九　前各號ノ外廳府縣令ヲ以テ定メタル事項

前項ノ申請ニハ戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本、前項第三號第四號ノ承諾書市區長村長ノ作リタル承諾者印鑑證明ヲ添付スヘシ

娼妓名簿登錄申請者ハ登錄前廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘキモノトス

第四條　娼妓稼ヲ禁止セラレタル者ハ娼妓名簿ニヨリ削除セラル、モノトス

前項ノ外娼妓名簿ノ削除ハ娼妓ヨリ之ヲ申請スルモノトス

但シ未成年者ニ在テハ前條第一項第三號及第四號ニ掲クル者ヨリモ之ヲ申請スルコトヲ得

第五條　娼妓名簿削除ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テスヘシ

前項ノ申請ハ自ラ警察官署ニ出頭シテ之ヲ爲スニ非ザレバ受理セザルモノトス但シ申請書ヲ郵送シ又ハ他人ニ託シテ之ヲ差出ス場合ニ於テ警察官署カ申請者自ラ出頭スルコト能ハザル事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ。

警察官署ニ於テ娼妓名簿削除申請ヲ受理シタルトキハ直ニ名簿ヲ削除スルモノトス

第六條　娼妓名簿削除申請ニ關シテハ何人ト雖妨害ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　娼妓ハ廳府縣令ヲ以テ指定シタル地域外ニ住居スルコトヲ得ス
娼妓ハ法令ノ規定若クハ官廳ノ命令ニ依リ又ハ警察官署ニ出頭スルカ爲外出スル場合ノ外警察官署ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外出スルコトヲ得ズ但シ廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ地域内ニ於テ外出ヲ許ス場合ハ此限リニ在ラズ

第八條　娼妓稼ハ官廳ノ許可シタル貸座敷内ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條　娼妓ハ廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クベシ

第十條　警察官署ガ指定シタル醫師又ハ病院ニ於テ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘザル者又ハ傳染性疾患アル者ト診斷シタル娼妓ハ治療ノ上健康診斷ヲ受クルニ非サレハ稼業ニ就クコトヲ得ス

第十一條　警察官署ハ娼妓名簿ノ登錄ヲ拒ムコトヲ得
廳府縣長官ハ娼妓稼業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得

第十二條　何人ト雖娼妓ノ通信、面接、文書閲讀、物件ノ所持、購買其ノ他ノ自由ヲ妨害スルコトヲ得ス

●第十三條●●●　左ノ事項ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　虛僞ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登錄ヲ申請セシメタル者
二　第六條第十二條ニ違背シタル者
三　第十條ニ依リ稼業ニ就クコトヲ得ザル者又ハ稼業停止中ノ娼妓ヲシテ強テ稼業ニ就カシメタル者
四　本人ノ意ニ反シテ強テ娼妓名簿ノ登錄申請又ハ登錄削除申請ヲ爲サシメタル者

●第十三條ノ二●●●　左ノ事項ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　虛僞ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登錄ヲ申請シタル者
二　第七條第九條第十條ニ違背シタル者
三　第八條ニ違背シタル者及官廳ノ許可シタル貸座敷ニ於テ娼妓稼ヲ爲サシメタル者
四　第十一條ノ停止命令ニ違背シタル者

第十四條　本令ノ外必要ナル事項ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　本令施行ノ際現ニ娼妓タル者ハ申請ヲ待タズシテ娼妓名簿ニ登錄セラルヽモノトス

（●點あるもの改正の條項なり）

寄書

經濟上より見たる山形縣の遊廓

一會員

明治四十四年度の調査によると、山形縣下で貸座敷營業者數は、新に開業せし者十五戸、廢業せし者十二戸であつて、同年末現在數は百七十四戸であつた。之に住する娼妓の數は新に開業者三百十二人、廢業者二百七十五人で、年末現在は八百四十五人である。而して同年中の登樓者總は、驚くべし二十七萬五千三百二十人である。中に四名の外國人があつた。かくて遊興に投ぜられし金高は、實に三十二萬四千六百九十圓三十二錢三厘の巨額に達した。内、外人の分三十九圓三十四錢であつた。又最近本年八月中、山形市遊廓に於ける登樓者は、九千四百二十三人にして、消費高は七千八百三十八圓八十三錢五厘である。

吾人は此の統計によりて、熟々思ふに、此の巨額の金錢が徒らに無用無益に投ぜられたばかりでなく、之によつて社會に流されたる害毒の如何に大なるかを思ふものである。

先に内務省に於ては、恰も先帝陛下が戊申詔書を下し玉ひし當時、勤儉貯蓄の聲を高くして、彼の金森通倫氏を全國に巡回せしめて、國民に對して説く處があつた。一方斯の如くして國民の勤儉思想を高めん事に努むる當局が、しかも一方にありて、前述の如き巨額の金錢が、徒らに費消さるゝ事に對して、何等思ふ處もなきが如きは、實に是れ奇怪極まる事と云はなければならぬ。如何なる惡德、不生産、有害の事であつても、政府が公許するものは、勤儉の意に反しても差支ないのであらうか。二宮尊德を復活し、勤儉貯蓄を勵行する賢明なる當局者よ。希くば此の矛盾を解けよ！

嘗て本縣に大火があつて、縣廳をはじめ諸官廳、學校、會社等の重なる建築物は、悉く燒失した。當時知事は臨時縣會を召集して、五ヶ年計畫の縣債を越し、山形中學校十二萬八千五百十一圓七十五錢、山形警察署二萬七千三十圓二十一錢、高等女學校寄宿舍約五萬圓、陳列所四萬九千百五十九圓、縣廳三十五萬九千百八十九圓八十三錢、警察官舍七萬二千百九十三圓三十七錢、圖書館一萬七千二百十四圓八十四錢、治療院六千九十八圓二十錢、山形市役所約十七萬圓等、八十七萬九千三百九十七圓二十錢の建築費を要することになつた。此の費用は、今後五年間に亙つて、我が山形縣民の双肩に擔はせらるべき課税である。勤儉〱の訓令に壓せられ、重なる生活難に迫られ、而して此の重税を課せらるべき哀れなる農民は、實に身血を絞つて勞役に怠りないのである。

而かも見よ、三十餘萬の金錢は、人知れず遊廓の一隅に於て費消される。もしそれ此の遊興費を以て、此の縣債の辨償にあてたならば、三年にして償なう事が出來るのである。農

民の血と汗にならずして、僅かに都市の一角に蟠る夜の巷を撤廢したゞけで、造作もなく浮んで來るのである。吾人は無論此の比較を以て、直ちに實行さるべきものとは信じないが、斯の如き事實が存在して居る事を世の識者に知つて貰ひ度いのである。賢明なる政治家、聰明なる經世家、希くは此の社會經濟の一問題に意を止められよ。

嗚呼子女の教育を如何

賛助會員　西　鎭

廓清記者足下、廓清の事業は現今我國に取りて最も大なる必要を感じ申候。之なくんば我國の元氣益々衰へ、品性愈々墮落して遂に滅亡に歸すべく。邦家の爲め同胞の爲め一層の御奮勵を希望致候。尚又此大問題に關し實際困窮赤面せし事實有之候間、御參考迄に申上候。

時は今年の夏の頃にて有之候。小生當年十五歳なる娘を伴ひ、一夜代々木の別宅より出でゝ散策を試み、何の氣もなく彼の内藤新宿の電車通りに出でたるに、軒を並べたる商店の間に幾軒となく、間口廣く妙なる黒き布の暖簾を掛け奥の方を隠せる門構への割合に大きなる家あり。あゝ飛んだ處に出でたりと思ひ足早に此處を避けんとせしも已に遲く、娘は不審の眼を放ち『お父さん、此家は何をする處ですか』と眞面目なる問に自分は何と答ふべきかを知らず、實に困窮赤面致し何をする處か自分も知らずと答ふるより外無之かりし次第に候。

斯かる賤しき職業を公然とし、大厦高樓を築いて憚らず、人の子を獸類となし、肉を賣りて私腹を肥す悲慘なる所業を爲す人もあればあるもの、人とは思はれず、況んや政府が之を公許し之を援助するに至りては沙汰の限りに候。我國を神國なりと誇る國民が何故かゝる穢らはしき事をなし、又之を許すか、其害毒の及ぶところ實に怖るべきもの有之候。此世に公娼なるものあるが故に人の子弟を過らしめ、又一夫多妻の禍源を爲し、異性相見て漫りに色情を起すが如き與つて大なるものあらんと確信致居候。愛國の士、人道の保護者を以て任ずるもの廓清の一日も忽せにすべからざるを知らざるものなからんと存候。前にも述べし予の實例の如き、子弟教育の上よりいふも、天火を降して之を剿滅せずしては置可らざるものなりと存候。聊か所感を陳べて此段得貴意申候。拜具。

娼妓の救濟に就て

X　Y　生

拜啓、貴會にては、公娼廢止運動に御盡力被遊居候趣き、實に國家の爲め慶賀に不堪候。由來娼妓に對しては、自由廢業なる制度は之あり候へども、一方前借金なるものある爲めに、折角廢業しても却つて餘計の苦勞を増す等の憂ある爲、止むなく醜業者の貪るにまかせて、遂に苦界を脱する能はざる所以にして、先づ公娼廢止の第一歩として、娼妓の解放自

由を得さするが急務かと存じ候。

それにつき小生の卑見を述べ申候。娼妓は何れも年若者にて、恰も働き盛りの者のみに候へば、普通の勞働には堪へ得る者許りに御座候。就ては煙草工場、紡績工場、其他輸出品等の内に、多くの女工の手を要するもの數多之あり候へば、一方さる事業を興して、廢業娼妓をして、直ちに職に就くの便宜を與へ、而して在來の右樣の工場等へは、五十人、百人づゝ一手に分配して其賃金の内より一分を貸座敷の前借金の方に納め、その方の責を塞ぐやうにすれば、本人は申すに及ばず、其の父兄も必ず滿足する事と存候。又かくなさば、彼等も眞實より後悔して、たとへ金錢に困るとは云へ、現在の娘や妹を泥水に埋めし事を、全く誤れりと覺りて、所謂身賣の弊風も、徐々に改まる事と存候。

以上は娼妓廢業の場合の意見に候へども、更らに現今の制度に對し、貸座敷を二年目か三年目位を一期として全部の娼妓を解放する如き制度をとらば、遂には貸座敷業者自身より廢業するやうに相成るべく候。つまり營業者は、全く無意味に彼等娼妓より貪る者にして、もし正當なる計算を以て、明らかに決算せしならんには、到底今日の如き貸座敷業の成立ついはれ之なく候。然るに何事ぞや、娼妓を束縛する事籠の鳥の如く、甚しきに至つては、食を減ずる等の虐待をほしいまゝにするは、要するに制度の不完全の致す所に候へば、此點は大いに當局の考察を要する所と存じ候。かかる大罪に等しき行爲に對して、何等干渉する所なしとせば、要するに當局は、醜業者と共に、娼妓を苦しむるものなりと云ふも過言に候はず、實にあるまじき事に御座候。

右は貴會にとり、萬分一の御參考にも相成るかと、憶面もなく卑見を吐露致し候次第、最後に貴會のます／＼盛大にして、國家の爲め御勇健なる活動をこれ祈り申候。

秋田縣能代北羽新報社長 島田氏よりの來狀

拜啓過日は當町風紀問題のため御配慮被下奉感謝候。御熱誠なる御演說は當地に於て嘗て見ざる反響を呼び起し、醜業者は勿論警察方面まで刺擊を受けたる事不尠樣に見受けられ候。青年團諸君の感奮は一方ならず名譽同盟も結ばれ着々運動の步を進め居り候。

小生も不及ながら口に筆に貴說の受賣致し居候。

過日も知事及び警部長と汽車中に會し候序に貴說を述べ候。警察方面にては私娼の衛生に及ぼす害を防ぐ能はざるべしと言ひ居る樣に候。

「廓清」今後每號御寄贈被下度、弊紙にも其都度轉載致度候當地は秋田縣下に於ける第一等の公娼發展地に有之候へは、當地に於ける。遊廓習慣、警察の態度、風俗衛生等に就き追々寄稿申度存じ居り候。

十二月五日

北羽新報社　島田豐三郎

益富政助樣

輿論之聲

男女問題

廓清會理事 益富政助氏講演
秋田魁新聞
秋田毎日新聞所載

（一）

忠君愛國は無論大事である。政治も大切である。財政の事も大事だ、實業の事も、市政の事も、凡て大事には相違ないが、更にそれよりもモット大切な問題はこの男女問題である。この男女關係の問題は凡ての問題の根本問題である。然り、敎育問題、宗敎問題よりもモット根本の問題である。

吾國に於ては忠孝主義は國民道德の基礎であるといふ。よろしい、頗る結構である。併し君臣の別ありて後の忠君であり、親子の關係ありて上の孝道である。而してこの君臣の道の依つて生ずるところ、親子の關係の依つて出づるところは何であるか、云ふまでもなく夫婦である。併しその夫婦も亦男女なしには生じない、卽ち男女問題なくして夫婦なく、夫婦なくしては親子もなく又君臣もなきわけである。乃木大將が殉死前に於て皇太子殿下に献上せられたと云ふ「中朝事實」の劈頭第一に「男女は陰陽の本、五倫の始めなり。男女ありて而して後夫婦父子君臣の道立つ」と云つてある。實にその通りである。政治や財政や實業や市政や、或は又敎育と云ひ道德と云ひ、忠君愛國と云ふも、これは人間があり社會があつてから後の問題である。而してその人間は、男女なく、夫婦なくして生ずるものではない。さればこれ等は皆枝葉であつて、男女問題こそ凡ての中最も根本の問題である。この根本の問題を研究し之が解決に努力するは、宗敎家、敎育家、政治家その他一切の人の當然なさゞるべからざる處で、この男女の問題に就て徹底したる考を有つて居なければ、その敎育や、政治や、淺薄にして根底なきものとなるのである。

さて或人は「日本人は糞尿の類か、人間の類か」と云つたと云ふが、實に聞捨にならぬ極端な言である。併し考へて見ると餘り憤慨も出來ぬ。何となれば我邦人の男女關係の事に關する思想は實に滅茶苦茶である。前に余は凡てのものゝ根源は男女にあると云ふた。併しモ一つ溯つて露骨に曰へば男女の生殖器にある。さうすると人生の根底は實に男女の生殖作用に存すと斷せねばならぬ。然らば何が世の中で尊嚴なりと云つて生殖作用ほど尊嚴なるものはない。若し世に神聖なるものありとすれば實に生殖器ほど神聖なるものはない。然るに一般日本人はこの最も神聖でなければならぬ男女生殖の

事を果して何と考へて居るか。之を「遊び事」と心得、娛樂の事と考へ、之を玩弄物視してるではないか、遊廓といひ、遊客といひ、遊女といふ。何をして遊ぶのだ。生殖器は讀んで字の如く生殖の器である。然るに一般人は之を弄び、之を娛樂の用に供して何とも思はないではないか。而して公娼と云ふものがあつて國家がこれを認容し、法律はその玩弄を公認してるではないか。之は實に甚しい事である。既に公娼と云ふ。國家は公に之に鑑札を與へて許し、之から稅金を取つて國家の收入として居る。國民はまた少しもこれを怪しまないで、公娼を買ふを尋常の事となし、生殖を娛樂の具とし、玩弄の器として居る。かくて國家も國民も平然として居るところを見ると、蓋しこれはこの國の國民思想とは毫も牴觸しないのであらう。無政府主義者の一日も存在するを許さぬ日本國民、ともすれば世界的宗教をすら國體に合はぬの、國民道德を害するのと云つて排斥せんとする國民、さう云ふ國民でありながら公娼制度に對しては何等反對をせぬのみか、却つてその必要を唱ふるものが多い位である處を見ると、全く公娼制度——生殖器を以て道樂の目的物とする思想——は此國民の思想と一致して居る。少くとも反對しない。つまり日本國民は生殖器を以て娛樂の機關と心得てる。「オモチヤ」と思つて居る。即ち生殖器を用ゆる目的は快樂を得るにあると思つて居るに違ひない。若しさうであるとすれば娛樂快樂はその目的であつて、之から生ずる子孫の生々繁殖は副產物に過ぎない事になる。例へば身體の營養のために食物を取る。然るに糞尿はその副產物として否でも應でも出る、之と同樣である。吾々人間は副產物であつて生殖が當の目的でないとなると、その出て來た子孫は糞尿の類と云ふ事になる。生殖それ自身の目的で出來た子孫なればこそ之を人間の類と云ひ得るなれども、單に快樂から出來た副產物と云ふ事になると、その子孫は糞尿の類と云はれても一言ないわけである。

　斯くの如くに此の生殖に關する我が國民の觀念が不健全であるに、どうして國民道德の健全なる發達を遂ぐる事が出來やう。夫婦の關係男女の關係が正されない限りは、どうしても人倫の本が立たぬ。之れ實に重大なる國民思想の根本的問題である。人倫の根底に關する問題である。

　とはいへ余は、濫りに情慾を禁制すべきを說くのではない。佛教の禁慾主義や中世基督教の禁慾の習俗は、之は人間の自然に反したものである。吾人が主張の要點は即ち生殖器は神聖なる器である。故に須らくその生殖關係を神聖に用ひなければならぬ、之を玩弄視し、之を娛樂視し、眞實の目的たる生殖を度外視して、快樂をのみ目的とし、生兒を以て糞尿同樣の副產物視するが如きは甚だしき非理非道であると云ふのである。

（二）

　生殖器を神聖視してこそ貞操問題の如きも意義あることとなるのである。男女關係を一種の娛樂と考へ、生殖器を玩具同樣に心得、而してこれを弄ぶを以て人生の目的とする人々の

間に、どうしてそこに貞操の意義があるか。血統を重んじ、子孫を重んじ、正しき生殖を目的とし、その目的のためにあらずんば此神聖なる男女關係を濫りに用ひぬと云ふ所に始て貞操の意義があるのである、而して其貞操の價値も亦尊いのである。

日本には此貞操と云ふ事に就ては實に多くの美談がある。「貞女兩夫に見えず」これ日本婦人の道德律である。婦人の貞操を固く守つて之がために死もなほ辭せなかつたと云ふ日本婦人の理想は西洋の貞潔に對する思想以上に卓然として高く聳えて居る。夫の袈裟御前が遠藤盛遠に自らの首を渡して母と夫を助け、自ら貞潔を完ふせるが如き、之れ實に千古の美談である。若しこれが史實にあらずとして劇であるとしても之は崇高な劇である。かゝる劇を創作したる日本國民は偉いと云はなければならぬ。

斯くも日本婦人は一面に於ては實に世界に卓絕した崇高な理想を有して居たにも拘らず、一方にはその貞操の賣買を國家が公認して居るのである。而して國民は之を怪しまないのである。一方には死を以てその身の貞潔を完ふすべしと敎へ乍ら、一方には其貞操を五十錢に賣り、三十錢に賣り、十錢にも賣る。それを國家が公認して居る。鑑札を渡して營業權を與へて居る。而して何人もこれを怪しまぬ。國家も國民も全く神聖なる生殖の具を物品同樣に考へて居る。之れ何たる矛盾であらう、何たる國民思想の墮落であらう。吾人は先づ公然たる貞操賣買制度を打破しなければならぬ。此神聖なる生殖器の濫用、此貴き貞操の蹂躪、それを國家が之を認め許し、法律が之を保護し、而して政治家は之を以て善き財源なるかな位に思つて居る。かくていかでか國民の思想その品位墮落せざるを得んや。

或人は云ふ人間の情慾は之を已むを得ないものである。之を許して置いて弊害を取締るより仕方がないと。此議論は取るにも直さず、石川や濱の眞砂は盡きるとも世に盜人の數は盡きないから、盜人を公認し、泥棒を法律で許してやらせて、而して甚しき弊害だけを除くやうにしろと云ふと同じである。京都帝大敎授松浦醫學博士歌つて曰く、「いつの世も罪人の種は盡きずとて、國の掟をたゞさでやおく。」泥棒根性は人間に絕えない。泥棒はいつの世にもある。併しながら國家が之を惡となし、法律は之を嚴禁して居るから一般人も之を惡とし、この罪惡を減ずる事が出來るのである。然るに公娼が認許され、法律がこれを認めて居ては、一般人は之れを買ふを惡とはしない、少くとも泥棒同樣の惡とは考へない。公然大手を振つて賣淫し又淫を買ふのである。否これを手柄顏にして話してるものさへある。泥棒は盡きないからと云つて之れを營業とする事が出來ぬやうに、神聖なる生殖器の濫用、その貴き貞操の蹂躪は實に人類の根源に毒を注すものであつて、罪之より大なるはない。故に國家はどうしても之を罪惡と認定せねばならぬ。之を認容し、之を營業と認むると云ふは實に途轍もない事である。

(三)

勿論此世が天國とならない限り不貞操の事實がなくなるものではないことを知らない譯ではない。併し事實は事實である、淫賣の事實は人類のあらん限り絶滅することの出來るものでないかも知れないが、此淫賣の事實に對して國家が之を公許し、之を營業と認むると云ふが如き事はどうしても文明の今日あるべき道理のものでない。

吾人の今唱ふる公娼廢止問題は此の淫賣の事實をどうしようと云ふのではない。此淫賣の事實に對して國家は之を如何に見るべきか、吾々國民は之に對して如何なる態度をとるべきかの問題を議しつゝあるのである。見方の問題である。態度の問題である。今の處では國家は實にこの賣淫の事實を認容して居るのである。淫賣の貸座敷營業を正業の如く見て居る。賣り品に買ひ品で賣淫婦(娼妓)を買ふ事を何とも思つて居ないのである。地方に於ては却つて之を名譽として居る位である。、誇顏に語り合つて居る。悲しむべき事ではないか。

併しながら私娼に對しては如何。私娼に對しては國家は犯罪として居るから、國民もさすがに之を罪惡と思つて居る。密淫賣は警察の之に對する態度は明かであつて取締にも假借するところなきを得る。國民も之を密かに買ふと云ふ事は何となく罪惡であるやうに思ふ。論より證據「花魁」と云ふ言葉を聞くのと「密淫賣」と云ふ言葉を聞くのとは耳の響き方が凡てちがうではないか。而して兩者とも事實は同じ賣淫である。同じ事實でありながら何故に人の思想が斯く異なるか。即ち一方は國家之を公認し、一方は國家之を否認して居るがためである。蓋し國家が公認すると否認すると、反對の態度をとると、保護の態度をとるのと、その社會の風敎、國民の道德に及ぼす影響は實に大なるものがある。それ故に我黨の主張は今は制度の力で以て娼婦なるものを絶對に廢せよと云ふのではない。勿論絶滅は我黨の理想であるが、それは只敎育と道德と、宗敎の力によりて國民の品位を向上せしむるより外に道はない。即ち現在の所では廢滅しやうとしても廢滅する事の出來ぬものであらうが、さればと云つて之を公認しては決して不可いといふのである。されば廢娼と云ふ言葉は當らない。萬國同盟會では之を「賣淫公認制度廢止説」と云つて居るが、即ちそこである。賣淫てふ不道德の行爲に對しては、國家は之を不正の業として取扱ひ、法律を以て取締る可き犯罪と見做なければならぬと主張するものである。

公娼を廢して私娼のみとしたならば、その善後策、その取締を如何にす可きか。これは自ら別問題である。吾々はその點についても聊か研究を進めて居るが、今は之を論じて居る時はない。兎も角今のやうな制度では罪惡免許、犯罪營業認可の有樣であるから、先づこれを打破して仕舞はなければ、何もかも出來ないのである。

「法律は最も有力なる敎師なり」と云ふ語があるが、實にその通りで、父兄の强意見よりも、敎育家の忠告よりも、宗敎家の説敎よりも、最も力あるものは法律である。何となれば

之は權威を以て臨むからである。この意味に於て吾々は法律の改廢を必要とする。若し國の法律が凡て淫賣の行爲を以て罪惡であるとしたならば、國民は必ずや之を耻とし、之を不倫非道の事とし、國民道德の向上を來すに相違ない。否既にその實例はある。目下群馬縣は此公娼制度を全廢してるのであるが、私娼があるにも拘らず一般人が之に對する眼は、餘程以前よりは改り、群馬縣人は人の前でダルマ買（私娼の俗稱）の話をするを耻ぢ、子女はダルマの話をすると顏を背け耳を塞ぐと云ふ樣になり一般の人民は之を穢多の如くいやしめて居る。之を愛知、新潟の如き藝娼妓になるのを玉の輿に乘るのだと考へて親も何とも思はず、娘も喜び世間も之を咎めないのみか却つて羨むと云ふ態度と比較して見たならば、その之に對する道德觀念は、甚だ大なる相違がある事を見出すのである。で賣淫の事實は免まれ角まれ、若しも日本が公娼制度を廢し、賣淫の事實に對して常に反對の態度をとり、恰かも社會主義者を取締るが如くに娼婦を取締つたならば、國民の貞潔の觀念に影響するところは偉大なるものがあると思ふ。

（四）

公娼制度は英國や獨逸でも曾て之を試みて何等の効益もなくして、其國民の風紀や道德に及ぼす惡影響の大なるを認め、既に疾くの昔に之を廢した處のものである。然るに東洋の一等國と世界に誇つて居る日本のみ獨り今も猶夢より醒むる事が出來ぬとは情ない話である。

之を敎育上から見るならば、學校では貞操道德を敎へて居ても、國の法律や一般社會の風俗は、この貞操を公然賣買する事を何とも思はないやうになつて居る。それで何で敎育の効果が擧がらう。一體我が國民には徹底した國民思想の根底が出來て居ない。系統ある國民道德が出來て居ない。法律と敎育とが矛盾し衝突して居る。江原貴族院議員などの主張も此の點にある。即ち國民の正義の觀念が不統一である。敎育では正しからざる事も法律では正しい事である。女郎屋の亭主が町長になり、小學校の卒業式に臨み「忠實業に服し、勤儉產を治め、惟信、惟義」といふ詔書を朗讀する。或は遊廓の樓主が區會議員、市會議員となつて居る、或は學務を司つて居るものさへある。こんな奇態な現象を呈して居るに猶その過れるに氣がつかぬ。千疊の堤も蟻の一穴より破るといふ、況んやこの破綻を來して居る以上、國民の道德が壞頽せざらんとするも豈得べけんやである。

之を衞生の方面から云つても、公娼の所謂檢黴制度は其効果甚だ疑はしく、英米の如きは之を無効なりとして早く既にこの制度を止めたのである。今の黴毒傳播者は寧ろ公娼であると云つてもよい。大阪師團の鈴木聯隊司令官は現に之を公言して居るではないか。殊に京都大學の皮膚黴毒科長松浦醫學博士は今の檢黴制度によつて花柳病を豫防しやうとするのは、例へば「一瓶の昇汞水を大平洋に落してそれで海の水が消毒されると云ふのと同じである。」と云つて居る。また花柳

病の病菌の有無を知るだけでも、最も完全な顯微鏡を用ひて少くとも十時間檢べて見なければ分からぬと專門家は言つて居る。之を停車場の改札口の如く瞬間に多數の娼婦の檢黴――ほんの形式一片の檢黴をしたところで、何の役に立つか。去る頃救世軍の山室大佐と共に内務省に行つた時大佐は古賀警保局長に對し、單刀直入、今の檢黴制度が役に立ちますかと聞いたら、大に口ごもりながら「まあ、やらぬよりはいゝさ」と云つたゞけであつた。「やらぬよりもよからう」位の事である。確信がある譯ではない。例へば何の病にしろ、一粒の藥でも飲むは飲まぬよりもよいかもしれぬ。けれども全快は誠に覺束ない。否病の輕減すら覺束ない。こんな事で病毒豫防だの何だのと云ふのは所謂羊頭を掲げて狗肉を賣るの類である。人だましである。詐欺である。要するに今の檢黴制度で以て花柳病を豫防し、之で以て花柳病を撲滅し得るなどと考へるなどは、甚だ事情に迂なるものであつて、又時代後れの考である。而して一般人はこの公娼制度あり、檢黴制度あるがためにこれを安心なるものと思つて却つて之に誤られる。島田代議士が檢黴は保險にあらずして危險なりと言はれたのは事實である。

願はくば國民思想の統一のために、國民道德の向上のために、又生殖に對し、性慾に對する誤れる見解を改むるために而してその一大障害となつて居る公娼制度廢止のために、純潔にして元氣潑溂たる我が青年諸君の奮起して之に盡くされん事を切に切に望んで止まぬものである。(をはり)

能代青年團長西村敬治氏よりの來狀

二四

拜啓仕候。渦般當地御來の節は甚だ御失禮申上げ恐縮の至りに有之候。其節は種々有益なる御高説を拜聽する事を得、誠に感謝の儀に奉存候。

元來小生等は公娼廢止に就ては其方法及び結果の上に關し種々の疑問を抱き居りしも、御高話を親しく承はるに及び其蒙を啓き得たる處多く有之、當青年團員中にも大に感奮致し候もの多數に之有猶ほ又先回の演説會の聽衆中にも小生等の寧ろ意外とする程一部の人に深き好印象を剋し得たる樣子にて、小生等の誠に欣喜に堪えざる處と存じ居り候。偏に御厚志に係はる次第深く感謝仕候。今後と云へども、何分の御配慮を仰ぎ度小生等も何等か具體的の實績を以て謝意を表したき心組に有之候。猶序ながら先般演説會の會場たりし能代偕樂社に於て雜誌「廓清」を毎月御配與願上度此儀小生より御願しくれよとの依賴に有之候、同所へ廓清を備へ付け公衆の縱覽に供するは主旨呼號上大に好果あるべくと愚存せられ候間御傳請仕候。先づは御禮かた〴〵申上候、時節柄御自愛專一に奉祈候　拜具

十二月五日　西村敬治

德富政助樣侍史

雑誌の雑誌



（信仰の友）

●ステッドとジプシー、スミス

▲●●●●●●●●●タイタニック號遭難者　の一人倫敦「評論之評論」主筆ウイリアム、ステッドが新聞記者中の覇王なりしのみならず、又敬虔なる基督信徒なりしことは普く人の知る所なるが、此頃有名なる英國の傳道者ジプシー、スミスはステッドに關して次の如き逸事を語れり。曰く、曾てステッドスミスがポンチープリッドに傳道集會を開きつゝありし時、或る日曜日を送らんとて彼と共にローンダ、ヴアレーに往きしとあり其の夜の說教終りて後、スミスは三四百名の人々を一室に集め、救に關する質問に應じつゝありしがステッドも亦此部屋に入り來りて坐し居たりき。やがて一人の年若き坑夫起ちてステッドに向ひて言ひけるやう、「ステッド君、余は此の炭坑に働ける六人の坑夫を代表して君に一言の謝辭を述べたく思ふなり。我等は曾て不信者たらんと決心したりき、否實に不信者なりしなり。去れ共我等はステッド君を崇拜せり、君は實に我等のヒーローなり、我等は君の書きたるものにして我等の手に入れるものは凡て之を讀みたりき。然るに數月前我等は君が痛く不信を責めたる一文を讀みて深く感動し、終に神を信ずるに至りしは全く君の賜なれば、我が同僚は君に謝辭を述べしめんために余を遣はせり」と、ステッドは之を聞て一言の答をも爲すこと能はず

▲●●●●●●●感の涙にむせび　つゝ此の若き坑夫と握手したりき。斯くて人々去りて後、ステッドはスミスに語りて「余は此迄歐羅巴の多くの帝王と握手したりしが未だ曾て此の若き坑夫と握手せし時に經驗したりし程の最大の喜を感じたることなかりき。余は新聞記者の職を去りて傳道者となりたしとこそ思ふなり」と言へり。

●御旨を成させ給へ

▲●●●●●●●●●●●左の一話は米歐の傳道者　ムーデーが「御旨を成させ給へ」といふ言の意味を說明せんと語りたるものであります。余に一人の少女があります。一日余に向て「阿爺、私に人形を買つて下さい」など申しました、私は「承知しました、お前によい人形を買つて上げませう」と言つて、少女を伴れて玩具店に往きました。すると、少女は大さ凡そ二寸ばかりの小さな人形を見出して、頻りとそれを欲しがり、強て之を買つてくれと申しました。故に私は其の請の儘に之を買つてやりました。斯くて私は少女と共に此處彼處と歩き廻りましたが、少女はやがて更に大きな更に美しい更に値の高き人形の幾個となく店頭に並べあるを見出しましたが、もはや一個の人形を買ひたることゝて、今更致し方はありませぬ。家に歸て後私に向て「阿爺、私はもつと大きな人形を買つて戴けばよかつたのに惜しいことを致しました」と言つて歎きました。私は答へて「私は汝に最もよきものを買つてあげやうと思つて汝を伴れて玩具店に往つたのであるのに、汝は自分ですきなものを撰んだのだから致し方はありませぬ」と言つて置きました。其の後間もなく私は英國へ參ることゝなりましたのでありますが、出立に臨み少女は其の小さき手を私の頸にかけ、私の膝にもたれました、私は少女に向て「英國からお土產に何を買つて來ませうか」と言ひますと、少女は前の經驗を記憶して居つたものですから、私の顏を眺め「阿爺、あなたのよいと思ふものを買つて來て下さい」と申しました。彼女は父の考は已の考よりも優れることを悟りしが故に、斯く申したのであります。「御旨を成させ給へ」とは、正に此の如きことを意味するのであります。私共は天の父は永遠を見給ふが故に私共の思慮よりも優つた考を有ち給ふことを知る時は、其の慈顏を眺め來りつゝ「凡ての事御旨の儘に」といふことが出來るのであります。（摘載）

○新説

●生命人造詳報

在倫敦　ウォーカー夫人

▲老衰と死を防ぐ法なし　化學の力によりて生命を人造することが出來、男女の性を分ちて之に性格を與へ、疾病を殺滅することが出來ると云つたシエフアー氏は、更に進んで死其者は何れの日にか絶滅することは出來ないものであらうかと論じて、到底其不可能なることを斷言し老衰と死の現象は生命の生存といふことについて自然的に起るべき必要な結果であらうか、例へばメチニコフの如き生理學者等も老衰といふことは不自然なものであつて、一種の病氣である否少くも病氣によりて起る所のものであるから、少なくとも理論的には除去することの出來るものであると云つて居るが、例へ疾病の暴力は全然之を免れ得るに至つたとするも、兎に角に生物の肉體を構成する一定量の細胞は結局老衰して、遂には其作用を止めるに至るべきである。有機體の生命に對して必要なる細胞が斯の如くならば死といふことは生物に對して起るべき當然の結果である。此法則は世界を通じて何れの時代に於ても行はるべき一般の法則であつて、何人も此法則を脱すること能はず生あるものは悉く自然を經て永劫に到着しなければならぬと云つて居る。

▲雜駁なるシエ氏の説と宗教家　シエフアー氏は倘吾人は適當の方法を以てすれば化學の力によつて所謂生命といふものを造り得るのであるが、其最初に出來る所の細胞は神經細胞で、あれが發達進化して遂に人間となつたもので、遺傳の如きも亦化學者の力によつて解決さるべきものであると云つて居るが、斯くの如き雜駁なる所説は到底學識ある博士連をして心服せしむるに至らず、寧ろ尋常一樣なる平凡な議論と見るべきものである。さるにても宗教家の如き人間を以て有機體の完全なるものとなし、所謂靈魂の存在について信ずる所の人に在りては、生命創造説の如きは聊か寢耳に水の感があることであるが、よしやシエ氏の所説が違ひであるとしても、實際に於て此實驗の成功するに至るは、幾百萬年から後のことであらうから、さして心配するほどの事もあるまい、而してシエ氏の此所説に對して世界の科學者の多くは多少の言を費しつゝあるであらうが、要するに生命が千古の秘密であることは依然として變りないのである。

▲動植物の差別と赤面の理由　以上の所説の外に、シエ氏か述べたる挿話の中には、多少の興味を以て見るべきものが少くないから試に其一二をあげて見やう。氏曰く神經組織の形成といふとは、動物と植物との間に完全なる障壁を生ずる所の手段であつた。植物には神經組織のあつたと云ふ何等の形跡もなければ、之に相當すべきものゝあつたことを想像することも出來ぬ、之によつて考へて見ると、如何なる植物も知識といふものを獲得し得べき時期の到來することを想像することは出來ぬ。氏は又羞恥によつて人間が顔を赤くする理由を説いて、心臟に於けるが如く、動脈の上に起る變化は、亦等しく感情の影響によりて生ずるのである、故に顔の赤くなるのは、動脈を構成する筋肉組織の上に及ぼす所の一種の退化した作用に基づく純然たる生理的現象で恐怖によりて生ぜらる蒼白の顔色は、上述の組織が急劇に收縮するが爲であると云つて居る。（萬朝）

●生命人造説の批評

シエフアー教授の「生命人造説」に對する英國諸大家の贊否意見

▲批評區々たり　海外電報の簡單なる報道に依つて一時吾人の耳目を聳動せしめ、英國科學協會長シエフアー教授の生命人造説の内容に就ては、讀者は兩三日前本紙上に掲げし本社倫敦通信員ウオーカー夫人の通信に依つて其詳細を知悉されたであらう、教授の生命人造説は吾人の想像せし如く實驗室に於て實地に生命人造の可能を證據立てしものに非ずして一の假定説に過ぎなかつたのであるが其聲の高かつただけに英國では教授の説は學界の大問題となり、之れに對する諸學者思想家の評論の發表さるゝものが尠くない、英國の學者思想家は此説に對し、如何なる見解を抱持するか今左に其代表的なるものを掲げやう。

▲科學協會の主張　英國科學協會は生命の物質起源を推論し其實驗室内に於ける人造を豫言して一歩も退かない、シエフアー教授と同意見を有するエリオツトスミス教授は、人間が栗鼠屬の動物より進化せるものなる事を主張し、サー・ランケスター氏も亦シエ教授の説に贊成してゐるが、サー・オリヴアー・ロッヂ氏は大體に於て贊成して人力の及ばざる點に言及し、英國教會監督ウエルドン氏及びシンクレーア氏の如き

は反對の意見を有して居る。

▲ランクスター氏の説　有名なる動物學者なるサー・ランケスター氏は曰はく「人々はシエ教授の說を聞て昂奮してはならぬ。生命合成分の人造法はまだ發見せられては居ないが、そが完成さるゝの日は期して待可きである。シエ教授の演說中には余に於ては今少し極言せればならぬ一つの物がある、多分先入的論議を避ける爲であつたらうと思はれる、敎授は所謂生命と靈魂とを同一視して居ない、余の考では右の二者中其一つは他の論理的成果である余は所謂靈魂と稱せらるゝものは生命の一部分として發展したものであるといふ說を保持せざるを得ない斯くの如く考ふればとて決して人の靈魂と稱するものを輕視する譯ではない。

▲ロッヂ氏の意見　バーミンガム大學總長サー・オリヷアー・ロッヂ氏は曰く「生命ある物質が多分將來實驗室に於て人造さるゝならんと云ふ事は既に余の暗示した所である、現今ではまだ完成されて居ないが、既に幾多の價値ある實驗が行はれつゝある、然し原形質が人工的に合成さるゝ時來るも、必らずしも人性の秘密が現今よりも餘計に闡明さるゝといふ譯ではない、即ち物質に所謂活力を附與する或るものは矢張吾人を廻避するに違ひない」とて生命人造の可能を承認し乍らも尙人性の秘密の超自然的なる事を主張してゐる

▲二宗敎家の批評　マンチエスターの副監牧師ウエルドン監督は曰く「科學の成功は非常なものであるが、然も從來造化の門戶に於て敗れて居る、余は此大問題の鍵は尙秘密にされて居るに非ざるかを疑ふ者であつて、其鍵が神の手に委ねられて居る事を信ぜざるを得ぬ」と、又各敎家アーテディコン・シンクレーブ氏は曰く「若し人間にして原始的生命を作り得るとせば、そは造物主の法則に用ひられざる他の物質を作りつゝあるのである」と極端な否定說を主張して居る

〔生活問題〕

●婦人の職業

▲醫師

近く發表された醫術開業試驗の結果によれば合格した女子がボツ〳〵見へる、鬚の生へた男の黜落されて靑くなつてるのに較べて如何にも花々しい感じがする。

▲女醫學校　女醫製造の本家は牛込區市ケ谷の東京女子醫學專門學校（校長女醫鷲山彌生）であらう、今年は四人、創立以來四十六人出した、それが現在（一）開業（二）病院勤務（三）研究中といふ類別になる、開業は主に鄕里である、病院勤務は現に朝鮮總督府に二人其他府縣縣立公私立の病院にある、又研究何はれも病院でやる。

▲何科が適當する　一口に女は弱い者といふが强がちさうでもない、大抵の外科手術は平氣でやる。然し夜間の往診等は成るべく遠ざかる方が可いといふ點から何科が適當かと云へば（一）產科（二）婦人科（三）小兒科（四）耳鼻咽喉科といふところらしい鷲山校長の經營したる東京至誠病院も產科婦人科が主となつてゐる。

▲資本と收入　學資は四年間ザツト千圓卒業して資格を得た後月俸で雇はれる點になると三四十圓滿鮮へ行つて百圓前後開業するとなれば、撰む科にもよるが設備に千圓内外かゝる。

▲生徒の身元　近頃は急に醫士の娘が增して來た農家の子女も多い、次は商家官吏の子女、要するに皆中流以上の者で學資に窮するやうなものは一人もない

▲齒科は婦人向　齒科は普通醫とは全く別になつて居るが、此齒科は第一綿密な注意を要する點、第二病家を見回らなくともすむ點などからして婦人向である、殊に齒科の中でも拔齒外科手術よりか、齒列矯正とか齒牙治療とかゞ適當する。

▲何處で修業する　今日のところ資格のある女齒科醫は全國に十二三人ある。神田區小川町一東京顯微鏡院內には東京齒科學講習會があつて婦人の講習生が十人程ゐる（多數は男生である）こゝでは文部省の試驗を受ける準備をする。

▲齒科醫の需要　女醫同樣滿洲や朝鮮に歡迎される內地で女齒科醫の月給は普通女醫よりか三四割方安い。自身開業するには設備に五六百圓かゝる。それといふのは齒科は半以上技術で細々しい道具が澤山要るからである、學資は女醫生のと大同小異。

▲素養と試驗　普通醫も齒科醫も高等女學校卒業程度の學力があつて欲しい、それであれば普通三年で大抵合格が出來るだらう、數學上の知識が比較的必要である、高等小學卒業程度で講義錄を見るものもある

が、それだけでは試驗は受けられない多少の素地を作るに止まる。

▲家庭と結婚の問題　婦人は概して一家を整理して子女を教育すべきもの、少くともそれが日本流の因襲である。然るに醫師なり何なり一定の職業に就くと兎角等閑視にされる。女醫が辯護士、教員、牧師と夫婦になつた四五の實例もあるが圓滑に行かなかつたといふ、して見ると同業が宜からうが、亭主が往診、女房が宅診となれば都合も可い理なれど、さう御誂へ向きにも行かぬらしい。

▲產　婆

▲若い助産婦　丁年未滿の娘で免狀を持つてるのが澤山ある。それを産婆と呼ぶのは少々氣の毒な感想もする。彼等も産婆といはれるよりか助産婦と呼ばれるのを嬉しがる。産婆學といふよりか助産婦學といつた方が體裁も好い。

▲産婆學校　養成所は各地に澤山ある。一寸見たところで東京市中にも

日本産婆學校（麹町區中猿門外）
東京産婆養成所（神田區三崎町）

其他病院内にあるものは

濱田産科婦人科病院（神田駿河臺）
木原産科婦人科病院（神田猿樂町）

等が主要なもの、日本産婆學校と濱田病院では各數十名の生徒を新養してゐる、だが産婆になるには必ずしも學校に入る事を必要とせぬ。看護婦の勤務の餘暇に醫師から講義を受けて免狀をとつた者が澤山ある。

▲修業年限と開業地　學級で教授してる所では一年乃至二年で卒業させるが、卒業前に、中でも氣の利いた者は九箇月位で免狀をとる、二年かゝるのはヨタヨタ悠然した方である。開業は東京市の中央でやつても發展が覺束ない、それは從前からの産婆がお得意を占めてゐるから……そこで東京ならば場末の新開地、轉居の多くある人氣の惡い場所が新參産婆には有望であるさもなければ地方に發展するに限る、東京で立たないで地方へ行つて盛に繁昌してるのが現に數多くある、それにしても最初二三箇月は大勢組みに來るものでない。

▲學資と收入　修業中の學資は自炊でもしてやれば月十二三圓でも濟む、學校の寄宿へ入れば十七八圓から廿圓位までかかる。開業後の收入は一樣にいへない、場所が好く顏が廣くて其上一寸評判でも良ければ月收三百圓以上のもある、一方では辛うじて衣食してるのも、又遣りきれぬのもある、少くとも一月に十件なくては立つて行けない、十件でザット三十圓前後の收入になる

▲産婆生徒の身分　十中の八九は夫に亡なれたもの、離婚になつたもの、さもなくば嫁に出る機を逸つたもので、中には三四人の子女を有つてこれから免狀をとつて女の腕一つでそれを教育せねばならぬといふのも多い、隨て年齡も四十歳のが珍らしくはない稀には明治以前のもある、五十何歳といふのもあつた例がある、平均年齡は二十五六歳であらう、彼等の中には夫があつたところで同棲してる者は五十人の中一人あるか無しである位氣の毒なものだ、一生懸命に勉強するのは無理もない。

▲受驗上の好都合　府縣に由つて試驗問題に難易があるので、東京に居住してゐながら千葉埼玉の地方へ流出して受けるのもある。合格した上は何處で開業しやうと免許の効力があるから都合が好い。この點は看護婦の免狀と少し違ふ開業するには、腕の利くだけ器械が要らぬから十分見積つても百圓あれば立派なもの、六七十圓でも濟む診察所など設けて大規模に行ると多くは失敗する。

▲姙婦預り所　近頃姙婦預りが市中に殖えて來たこの姙婦といふのは私通に原因する者が多いさうで、公然と家庭で分娩の出來兼ねるのが對手と相談でこの預り所の厄介になる、これは姙婦の仕拂が雜作なく行けば好いが對手の男が貧乏書生か、下等の職工でもあると預けたまゝ行方を晦ます、姙婦は着た儘の進退谷まつた結果産婆の損失に歸するが多い。

●生　活　難

▲殘飯屋の繁昌

▲東京市中の殘飯屋は十三軒で、紡績會社辨當屋の殘飯を扱かふもの、及び各兵營學校の殘飯を扱ふものとがあつて、名は實に賤たる芳ばしからぬ商賣柄に似ず相當の資産を造つて、堂々と門戸を張つて居る。扨て軍隊並びに軍屬學校の殘飯の請負をするには一年分幾らで入札するのもあれば、一貫目幾らで入札するのもあるが、近頃兵營へ納める米は、三等米の筈であつても、實は四等米、これに麥三分を加へて兵卒一日の食料は約六合の割であるが、大抵一個聯隊から拂下げる殘飯の量は、一食に就て六七貫乃至十貫目以下である。

●●●●●●●近時兵營に機械炊きを用ひるやうになつてから、一般に殘飯が少ないが、食慾の減少する七八九の三ヶ月は、他の月に比して殘飯も餘分に出る。この殘飯の賣價は味噌漉に一杯二合餘りで二錢位、これを賣出す時刻は午前八時と午後二時と午後八時の三回で一軒の殘飯屋で一日の賣上は約五圓内外が普通で、又洗ひ流しは豚にやるので、四斗樽一杯十五錢から貳拾錢位が相場なさうだ。處で之等の殘飯屋の附近には、一年中殘飯によつて生活する定連があつて、此等は一向米の高い事を苦にしないが、近頃日が暮れてから、恥しげな態度で、コソ／＼と殘飯屋の門に立つ束髮丸髷の婦人の多くは、安官吏、小商人の家内で、世間の手前は憚かりながら、此より外にすべがないので殘飯屋通ひをするので、斯う云ふ種類の客が滅切殖えたのは著しい現象だとの事である。

犯罪の研究

●殺人、墮胎の増加

▲殺人犯又墮胎犯は●●●●●●　年々増加し行く傾向ありて四十二年に五百六十件なりしもの四十三年には六百四十六件に増加し墮胎犯も四十二年には八百三十五件なりしが四十三年には千九十一件の多きに達し之れが爲に死したる者は四十二年に二十七人四十三年には七十五人の數を示す此の墮胎罪の増加は棄兒の數に影響し而して棄兒は減少し行くの傾きあり四十二年の棄兒は三百十九人なりしも四十三年には二百六十三人に減じたり獨り右兩年のみならず墮胎罪が一方に増加すれば一方に棄兒の數が減じ行くは最近四五年間の現象にして是も社會生活難の反響なるべし(やまと)

●朝鮮女の犯罪

▲相島代議士談

▲姦通罪●●●　大邱、京城平壤等の監獄又は裁判所に就て調査するに女の犯罪中第一位を占むるものは姦通罪なり。物數奇なる余は何故に姦通罪多きやの原因に摑りて研究したるが因つて來る所は案外に簡短なるが如し。先づ第一の原因と目すべきは婚姻の弊なり。元來朝鮮に於ては男女の年齡に拘はらず不自然に婚姻せしむる習慣ありて所謂言ひ名づけと稱するもの非常に多く行はる、許婚は大抵年齡に相違ありて甚だしきは生れたばかりの男子に十三四の女子を配するあり或は十二三の男子に二十以上の女子を許婚するものある許婚者の意志は絶對に尊重さるゝことなくして全然親の意のまゝに婚約せしむるものなるを以て夫婦間に愛情の實現せられざるは勿論、女の年齡の女盛りの頃は配偶の男は丸で子供にて女の慾望を滿足せしむる能はざるより遂に隱し夫を持つに至る者の如し。

▲夫殺し●●●　前例とは反對に男の年齡壯年に達し血氣旺盛となる頃は妻の姿は盛りを過ぎし花の如く徒に臙紛を施して男子に媚びんとするも却て男子の嫌厭を買ひ其結果夫は妾狃なし又は有夫の婦を誑かし男女間の風習を紊亂せしむ、しかのみならず夫が他の年少き婦人に關係する結果は老いたる妻に少なからざる嫉妬を兆さしめ、遂に夫殺しの淺間しき犯罪を出すに至る。大邱の監獄に女の犯罪人九十三人ありしが此の中に夫殺しの大罪人三人あり。黑川檢事長の談に氏の關係したる事件中十六歲の婦人にして嫉妬の餘り夫の耳の穴に熱油を注ぎたる夫殺し未遂犯あり。元來朝鮮には耳の穴に熱油をつぎこめば死すと謂ふ妄說あれば多分之を信じて試みたるならんが二三點注入するや否や飛び上り押へ付けられたるものなりと

▲オンドルの害●●●●　姦通罪多き他の原因はオンドル生活より來る生理上の結果なり余はオンドル生活をなしたる經驗なけれど室外寒氣凜冽の日四疊半の小座敷總てこれ煖爐とも評すべきオンドル中に暖まり生慾を挑發する時、誰れてより付け狙ふ隣家の菜に言ひ寄られ道ならぬ契りを結ぶに至るならん(日々)

○善行美談

●孝女おつね

▲三十年如一日

▲世は益々澆季に進み、人は飽まで浮薄に流れつゝある今日此頃、所は橫濱市に於て三十年一日の如く、病床に惱める老父に侍し、傍ら亡夫の遺兒の訓育に身を捧げ居る、昔を今に見る如き無類の孝女をこそ出したれ。橫濱市南太田町二千二百五十番地に小やかなる一家を構へ居る山上春吉(八十)と云ふは、岡山縣生れの者にして、壯き頃は東海道五十三次の道中な、裸一貫久理伽羅紋々の息杖一本にて、上り下りの譜代外樣の大名の衣荷を擔ぎ、雲助商賣を爲し居たりし者なるが、橫濱開港と同時に橫濱に來り、北方町に卸宿を開き、

挽子の二三人も置き相當に暮し居りしも、妻を亡ひし以來呑打買の三道樂に身を持崩したる爲め、俥宿は忽ち人に渡し、明治十七年自分は日の出町の某俥宿の挽子に住込みたる位なれば、亡妻の遺兒たるツネ(四九)に衣類一着買ひ與ふる事能はず、幼き頃より諸所に下女奉公に出し置きたるが、五十の坂も既に越え若き時の道樂の酬ひは身に巡り來て、立働く事も能はぬ有樣に家に引取られたるツネは、遊び盛りの十九の年を僅か器用に覺えて女髮結の業にて父を養ひ、緣ありて明治二十九年に山崎某と謂ふを婿に貰ひ、夫婦の間に濱雄(十五)を儲けしも、故ありて婿は其後離緣となりし以來、前記南太田に居を移し、自分中風の父を介抱しつゝ下駄の鼻緒の內職を爲し、濱雄を老松小學校に通はせ、本年四月同校を卒業させしより、同人を目下南吉田町なる菊地アルバム製造所に遣し、自分は日夜病父の療養に餘念無く、又數年前死去したりし山崎某の忌日には、墓參怠りなく孝女節婦の名高く、附近の者の模範となり居れるを、林戸部署長が聞知し目下表彰上申の協議中なりと。

●四人肉を割いて未見の人を救ふ

▲俠骨香しき英國紳士

横濱山手町の一般病院に一年前より入院せるグレー(四十二)と云ふ英國人あり元某汽船乘組の一等運轉士にして航海中に機關室より放射したる熱湯を全身に浴び大火傷を負ひたるより横濱入港後直ちに同病院に入院し院長ホサラー博士執刀の下に手術を受け漸く生命丈は取止めたるも下脚兩膝下の皮膚全部剝離せる爲め如何に手當を施すとも肉付かず此上は他人の生肉を持來りて植肉するより外に治療の途無きに至りしが横濱青年義勇隊長なる英國紳士グリツフヰン氏が聞込みて同情し同地在住ヒーリンク商會支配人エドワート氏アンドルス●ジヨジー商會支配人ガードリツチ氏及びブランデル氏の三人に相談の上四人打揃て廿六日ホヰーラー博士に面會して我々は未だグレー氏に一面識無けれど氏の爲に肉を割きて一日も早く恢復せしめたしと申出でたれば博士も深く其高義に感じ直ちに四人の上膊より生肉を切取りてグレー氏の下脚に植肉して手術を畢りたるが床上のグレー氏は四人の親切に感じて熱淚に咽びつゝありと(報知)

○社會

●恐しい流行の哲學

松村介石氏

▲近時●●●●●●●●恐ろしい哲學が流行り出した。子を持つ親達は、非常に氣を付ければならぬ。どんな哲學かと云へば是れも虎列剌の樣に、赤痢の樣に、黑死病の樣に、皆外國から來た忌々數もの丶一ツで、或は自然主義とも、本能主義とも、自由主義とも云ふが、極端なる個人主義の哲學である。其說に曰く、凡そ人類にして己れの幸福を念ぜぬものは一人もない、然るに此に大に此幸福を破るものがある、何んぞや、宗教是れである、道德是れである、本心是れである。此等が相寄て、イヤ彼してはならぬ、此せればならぬ、親がどうの、禮儀がどうの義務がどうのと喋べ立てるによつて、人間が始終之れに束縛せられて、窮窟になりどれほど我が幸福を妨げらるゝか知れないのである。因て我等は此束縛より脫せればならぬ、此窮窟より逃れればならぬ、宗教とは何んぞ、道德とは何んぞ、本心とは何んぞ、此等はつまり人間の造つたものであるから、又た人間が棄てゝも構はないものである。彼せればならぬ、此せればならぬと云つたところで、誰が之を命ずる權威を持て居るのであるか、彼れも人なれば、我も人である、彼れが命ずる權利があるならば、我は之を棄つる權利がある。ソコで畢竟は其樣な事には頓着せず、飮みたいものを飮み、食いたいものを食ひ、遊びたいと思ふ時に遊び、寢たいと思ふ時に寢て、百般の束縛より脫れて見よ如何に人間は幸福ぞや。イヤ不品行は不可ぬの、不義は不可ぬの、男は放蕩してもよいが女には之を敎さぬなんごと、其樣な不公平な事があるものか、何んでも構はぬ、自由自在に思ふ存分を爲すべしである。即ち一切の束縛より脫して見よ、人間の幸福は雲の如く出で、泉の如く湧て來る云々とは、即ち此の當世流行の哲學が與ふる福音である。そこで女子に於ても莫連隊を組むやら、遊廓に行くやら其哲學の雜誌を出すやらして、其不品行を手柄顏に吹聽する樣になつて來た。

▲乍併余は●●●●●●自然主義の靑年男女に申上ぐ、君等は丁度狐に騙れて居ると同じことである。非常に立派な座敷に坐し、非常に美い女に圍まれ、山海の珍味で御馳走を喰べて居るつもりであるが今に見よ、此等の物は皆消えて仕舞て、獨り茫然と荒野の中に坐て居

ることに氣が着くから、成る程、君の哲學の謂ふ通り人類は幸福を念じて居るものに相違ない。然し飲みたい時に飲み、食ひたい時に食ひ、放蕩したい時に放蕩し、虚言を吐きたい時に虚言を吐き、一切の束縛より脱することをば、幸福の生涯と觀じたところで其れが出來ないのが人生である。飲むと云ひ、食ふと云ふにも、金が入る、其金を奈何して得る、働て得るすれば、働くと云ふ束縛を免れまい、親の金を使ふとすれば、最初のほごはよいが、始終となると六ヶ敷く、盗んで行れば、勘當せられ、勘當せらるれば、亦た勞働するか、乞食するより外には仕方があるまい、左れば何時まで君の自由主義を續け得るつもりであるか、つまり荒野に彷徨ふ運命を招くに相違ない。勝手に放蕩し、氣儘に虚言を吐くと云ふ、然し此れも考へ物である、君は勝手氣儘の自由を好むと同じ樣に、又た名譽をも好んで居るではないか、然るに此世の中と云ふものは、自身が放埒であつても、其子を放埒物に仕度はない、己れは虚言を吐ても、人より虚言を吐かれると腹を立つ、而して人を使ふには律義者を撰び、人に使はるゝには公明正大なる主人を望み、彼れは立派な人だとか、感心な人だとか、義理と人情とを辨へて居るとか云ふて譽めて居り、德操もなく、節義もなく、親を泣かせ、妻を苦しめ、友を賣り、恩に背くも、尙ほ我慾一片を貫かんとする人を見れば、人非人だと謂ふて賤めて居るではないか、之を自身に行ふときは、自然主義の哲學で、威張て居るか、人が之を君に仕向くるときには、怒て之を罵つて居る。左らば、自然主義の實行者は、つまり世に譽めらるゝ人でない、人に褒めらるゝものでないとのお氣が着かば、豚は喰ひたし生命は惜しだ、自然主義で肉慾は滿足するが名譽を好む一方の心が滿足しない、そこで自然主義も、終に思ふほどに幸福でないことが分るであらう(道)

●人口增殖法案

▲初產婦に二百圓の賞與

所謂文明の進步するにつれて人口は漸次に減少し行くこと佛蘭西の例證で明かである。米國も今や此の人口減少の病症に罹り始めた。どうしても當世風の文明的生活を氣樂に營まうとすれば兒供程厄介なものなく、之を教養するにも少からぬ費用がかゝる而已ならず、最も當世文明的女性の恐れるのは兒女を產んで其美貌をだいなしにする事である。で自然と、如何にもして兒女を儲ける事を避けたいと詐術を廻らすに至るのだ。

●●●●●●●
▲州會議の珍法案 合衆國エリノイズ州の議會で之を救濟する爲めに二法案が提出された。そはすべて結婚してから二年以內に初產をする婦人には二百圓の賞與金を贈り、それから次產三產と重なるに隨つて漸次其賞金の金額を增して行くと云ふ結構な法案である。

●●●●●●
▲財源は獨身税 此產婦へ贈るべき賞與の財源は如何。提案者の說明によれば男子に課して徵收する獨身税を以て之に充てる。即ち男子にして三十五歲に至るまで結婚せず獨身生活をなして居る者には一ヶ年に廿圓宛の税を課すると云ふのだ。

●●●●●●●
▲婦人も獨身を許さず たとひ婦人でも容赦なく獨身者には課税するとしても其額は一ヶ年拾圓と立案したさうだが、之は非常に異論があつて、成立が覺束ないらしい。が他の方面に於て州廳の事業として結婚媒介をなし、一般州民の孤獨者の便利を計る計劃があるのだ。

●●●●●●
▲驚くべき離婚數 米國に於る結婚は甚だ困難で然も折角結婚しても又直ぐに離婚すると云ふ弊風がある。其原因は生活の困難其他諸種に分れるであらうが、兎に角其數は夥しい。近頃發表されたインデペンデント誌の統計を見ると一八六七年から一九〇六年まで四十年に合計百二十五萬件、一八六七年には一萬件以內で一九〇六年には七萬二千〇六十二件に達してゐる。

●不良少年の心理

文學士　倉橋　惣三氏談

▲此頃の所謂不良少年問題は、不良少年になつて了つた子供をどうしやうかといふ問題と、其時期の子供を不良少年にならせまい、といふ問題との二つに分れて來る。

▲なつて了つた子供に就ては、いろ〳〵社會的の意味から之を除くといふ一の要素が入つて來るから、普通の犯罪人を取扱と似たやうな形を有する。が、其時期の子供が不良少來になつて來るといふ事に就ては、外からの理由のみならず、又內的の理由をも考へなければならぬ。

▲勿論不良少年の手本がなければ、次の子供が不良少年になる事もなからうが、其手本に應じて行く種々

の原因理由は、恰度此年齢の子供の心の中に、幾らも數へて見る事が出來る。

▲其一は、子供から大人に移り行く此時期は、いろいろの新しい精神的活動が起つて來て、其強い力に依つて自ら自分を導いて行くことが却々困難になる。殊に自分といふ考が大に強くなつて、今迄甘んじ受けて居た監督や束縛に對して、此覺醒した自我感情が、種々の反抗的活動を起し、自分の生活は自分で支配し行かうとする。

▲それで、側から見ると實に愉快であり幸福であるやうな家庭をも嫌ふ。或はこれから脱げ出るといふ樣な事一面の理由になる事がある。

▲次には、此時期の者には何か一の社會的團體を作らうといふ新しい感が起る。必ずしも其團體に依て或目的を遂しやうといふ意味ではない。唯何か一の團體的生活の一員となりたいといふ感が強く起つて來るので、所謂兒群と稱せらるゝ種々の現象を生ずる。

▲一方に強い自我の覺醒に依つて、家庭や父兄の束縛を脫しやうといふ考を有ちながら、一方には不良少年團に投じて其頭領の頤使に甘んずるやうな矛盾は、怎ういふ内的の原因に導かれて居る。

▲此社會的衝動は善用さるれば將來の公共的生活の自然的訓練を受ける所であつて、社會的生活を營まなければならぬ人間に、此青年期の社交的衝動は、自然が與へた教育的のものである。

▲唯それが不良團體に屬したといふ事に依つて、忌むべき或は惡むべき事になるけれども、兎に角或團體生活を欲求して居るといふことは、青年期の強い自然の衝動である。

▲斯の如き青年期になつて起る新しい感情は、適當に其要求を滿たされなければ、惡い方に行くのは當然である。殊に此時期は恐らく一生の中で、一番矛盾したいろ〳〵の生活が起つて來る時で、一方には非常に道德的或は宗教的の美しい感情が起ると共に、一方には又種々の罪惡的生活の最も多く行はれる時である。

▲併し青年期がさういふ罪惡的生活に近づき易いといふ事に就ては、惡く化され易い時期だといふよりは、善くも惡くも化され易い時期だといふ方適當である。

不良少年は以上述べた二つの青年心理が、偶ま惡い方へ向くやうになつたとも考へることが出來る。

▲要するに子供から大人に移り行く此時期は、一生の中最も矛盾した生活を營む時期であるから、此時期に於ける一の生活は、大人の場合に於ける樣に其人間に確定したものではない。

▲即ち此時期の青年が善い事をしても、惡い事をしてもそれを以て其子供の性格全體と認めて了ふのは餘りに氣の毒である。故に怎ういふ時期の青年に對する取扱は特別な注意を要する。つまり其取扱が、子供と異なる如く、大人とも異ならなければならぬ。

▲今迄の不良少年の取扱が、惡しき性格を有する者を取扱ふに慣れた警察官に依つてなされて居ることも、一種の危險である。

▲第二には、斯の如く強い衝動を以て新しい生活を求めて行く時に、之に對する何等適當施設の與へられて居ないのは、最も此問題の解決に危險である。

▲近來獨逸などでは、卒業兒童の教育といふ事が一の特別なる問題としていろ〳〵注意されて居る。勿論普通教育に於ける教育の力は、其卒業後の生活をも支配する力を有する筈であるが、小學校卒業の此の期は、在學時代になかつた新しい生活が強い力を以て起るのであるから、此時期の青年に對する特別保護機關は大に必要である。

▲小學校を卒へて其上の學校に入らない者に對して、特別な社會的教育機關のないことは、此問題の爲めには一の缺陷と謂はればならぬ。

▲在來の考からいふと、青年期に達すれば最早子供ではないやうな考から、其父兄の監督が甚だ緩む。勿論青年は子供と同じに監督せらるべきものではないが、夫は監督の方法が變つて來るのであつて、監督の大切さといふ事に於ては、却つて其前の子供の時よりも增加して來るのである。

▲殊に子供の時の如く、單に家庭内の生活のみして居ないといふことになると、其監督が社會的性質のものになるとは必然である。

▲不良少年となるに至つて、始めて社會の注意を惹起して、其前に於て此時期の青年の社會的生活に特別な注意の拂はれて居ないことならば、何時まで經つても此解決はつくまい。

▲相當な家庭の子弟にして隨分不良少年の群に投ずる者がある。すると、此時期の子供を解せぬ夫等の父兄は、「自分の子供は家庭では怎んなに温良しい、不良少年などになる筈がない」と歎圖く。

▲併し此歎圖の當を得て居ない事は、以上述べ來つた事で了解されやう。矛盾生活は此年齢の特色である。

國體生活を欲求するは此時代の強い自然の衝動である。（日々）

●戰死者の遺族救恤

愛國婦人會東京支部にては毎年十一月より十二月にかけて戰死病歿せる下士卒の遺族の最も貧困なるものを調査し其困窮の度に應じて夫々救護し居れるが本年は例年に比して不景氣にて困窮せる遺族は心待ちして居るなるべければ一日も早く救護せんとて東京支部にて疾くに各區役所及府下郡役所に託して之れが調査をなし去る十一日より救護金を贈りつゝありて本月末までには結了する筈なるが貧困にて救護を受くべきものは三百五十八人救護總金額は三千四百七十八圓にして之を市部と郡部とに區別をすれば市部の遺族の人數と金額百八十三人の二千百十二圓にして郡部は百六十八の千三百六十六圓なり而して一家族にて最も多きは三十圓より最も少きは五圓までなり今各區各郡の人數及金額を擧れば左の如くなり。

區	人數	金額（圓）	區	人數	金額（圓）
麴町	五	三七	神田	一三	一一九
日本橋	五	五八	京橋	一一	一〇五
芝	五	四七	麻布	一〇	八六
赤坂	六	七二	四谷	一二	一三〇
牛込	一二	一二一	小石川	一二	一五四
本郷	八	八三	下谷	一七	二四一
淺草	二八	三一七	本所	二五	三六二
深川	一三	一七〇			
郡	人數	金額	郡	人數	金額
荏原	一九	一二五	豐多摩	二〇	一九四
北豐島	二三	一九五	南足立	一二	一二四
南葛飾	一〇	九〇	西多摩	三四	二一九
南多摩	二五	二四四	北多摩	二四	一七七
小笠原島	一	三〇			

（家庭）

●結核患者結婚問題

ドクトル　竹中繁次郎氏

結核患者に結婚を許すべきや否や、此問題は人類の運命、家族の幸福に關するもので醫師の最も考慮を要する事の一ツとなつて居る。勿論進行性の病變を有し結核病が身體内に蔓延し衰弱の烈しいものは生命は風前の燈火と同一、結婚を論ずべき限りでない。只其病變が少なくて恰も健康者と間違ふ位の人に於ては醫師の念頭を惱ます問題となつて居る、即ち病變の進行が止り全身の狀態が好良になり或は發病以來少なくも三年間の後に初めて結婚を許すものとしてある、而して各場合の選定は通例尙ほ次の如き條件を必要とせられて居る。

▲**戀愛結婚**　愛の凝つて願はれた所謂戀愛結婚では時として良好に作用することがある、予等の知れる場合の如きは結婚後之れが刺戟となつて疾病の經過が好良になる事があり斯る例は西洋の書物にも記載されて居る。併し結婚は許しても身體の勞働、精神の過敏に渡らしむる事は呉れ〴〵も愼しまねばならぬ、之に反して嫌忌せる結婚の場合に於ては絕對的禁ずる方が宜しい、精神の激昂となりて不良の經過を取るとは爭ふべからざる次第である、故に此結婚問題は本人の意識に俟つの外なしと斷言せねばならぬ。

▲**年齡の注意**　年齡も考慮を要する必要の一である、これ弱年に於て結婚すると病變の增惡は中年のものより劇烈であるとされて居る、これ弱年に於ては生殖器の刺戟は偉大なる作用を身體に及ぼすものなると姙娠の機會を頻繁ならしむるによるものならん、姙娠の結核の病變を刺戟せしむるは追て論ずるともあらうが兎に角醫界の定論として宜しい、結婚して姙娠すると否とは患者の生命問題であるから、此點から結婚を否定する學者も少くない、併し畢竟出來得可らざる問題でもあらう、故に近來は性慾の經過を取らざる場合に限り結婚しても宜いとの說が高まり各條件の下に研究する樣に成た而して年齡の上より云へば三十前後の婦人は既に結婚しても良いといふ事になつて居る。

▲**患者の公開**　若し一方が健康者であると患者の方は「自分が結核患者である」といふことを明言し承知の後に結婚せねばならぬ。殊に婦人が患者であるとせば一朝姙娠の如き危險が起り或は健康を傷ふた時、今迄潜伏或は停止せる結核病氣は爲に進行することがあるから、健康を急速に且完全に治癒せしむる必要あるからである、又男子は結核であるとせば婦人は常に自己の義務を考へて夫に靜なる安き家居を望み社會的物質的の責任を避けるやうに努めねばならぬ。

▲**社會的位置**　も考慮する必要はある、始終生活のために戰ひ糊口のために汲々とせるものは必ず結婚してはならぬ。これ往々精神は愚か身體組織に過勞を起して病勢を盛ならしめ死期を早むるものがあるから

である。

以上の事柄を概括して見ると、結核患者の結婚問題としては女は男に比し不利益なる側にあるので、共に三年以上靜止の病態にあるにあらざれば許容すべからざるは勿論、許容するも生活に窮せず一朝結核病變の進行上危險の起つた時に充分の保養も出來る社會上家事上の關係を有し三十年前後の年齡で且つ戀愛的でなければならぬと云ふに歸着する(中央)

●乳兒の保護

▲乳兒の病氣　確實な統計は判らぬけれど生れて一年位の子供の病氣に罹る數は非常に多く獨逸の醫學者は乳兒死亡一に對して二十乃至二十五位の患兒がある割合だと云つて居る。然し日本の乳兒死亡數は歐羅巴各國に比較すると餘程少い方である死因は種々あるが營養不良、乳の性質、氣候、社會の事情、境遇等が主なるもので七月末頃から八月頃にかけて夏の暑い時分に死亡するのが多い先天的弱質で死亡する者も隨分多いが病氣としては實扶丁里、結核性腦膜炎、百日咳等が多く殊に我國では流行性感冒で死ぬ者が一年間の乳兒死亡百分の三、一もあるこれは日本の醫者の中に學問をしない者又は診斷の粗末なのが多い爲であらうと思はれる。

▲歐洲と日本　十九世紀の末から歐羅巴に於て子供の出產率が漸々減少しつゝある事は事實であるが是に反して我が日本では西洋の樣に著るしく減つて居ない之は喜ぶべき事であるが子供の出產率は文明の進步に連れて漸次減少する同じく我が日本の內地に於ても北海道とか東北地方とか比較的文明の進步に遲れて居る地方は出產率が多く西洋地方に行くに從つて少い即ち野蠻未開の地方には子供が多く生れるのである又內閣の統計に依ると茨城縣地方には死產兒の數が特別に多い事が一見して判る元來出產數と死產數との比較は略決つて居るのに拘はらず同地の例は醫學上到底事實とは認むる事が出來ぬ是は實際の死產ではなく墮胎若くは其他の方法に依つて胎兒を暗から暗へ葬つて了ふ風習が今尙盛に行はれ居るものに相違ない。

▲乳兒保護院　兎に角乳兒の死亡率が漸々多くなると云ふ事は經濟上、社會上、又政治上重大なる問題だから歐洲では國家公共團體或は慈善團體に依つて乳兒保護法が講ぜられて居る其方法は一、母親に乳兒を同一の家庭に住居せしめて保護をなす者二、乳兒のみを母親より離して保護院に收容する者三、母子共に收容保護する者四、母親の勞役中(即ち日中)乳兒を預り保護する者五、乳兒を母親より引離して篤志の寡婦等の經營せる家庭的保護所に託する者等がある獨逸伯林の乳兒保護院の一日の託兒料は十錢一週間前拂が日曜を除き五十錢である。

▲授乳獎勵金　文明國の婦人は漸次授乳不能となる者が多いので出來得るだけ之を防止する目的から乳兒保護院の附帶事業として授乳獎勵金を下附する事も行はれて居る更に我が國最近十年間の死亡統計に依つて見ると幼兒結核患者が非常に多く殊に女子は壯年に及ぶに從つて漸次其數を增して行く事は確であるトラホームの如き全く死亡者を出さない疾病防禦の爲に全力を傾け居るにも拘らず生命身體に最も危險なる結核豫防に就て未だ何等の方法をも講ぜられざるは甚だ憂ふべき事と思ふ。(朝日)

●裏から見た家庭

白菊女

▲現代の我中流社會　の家庭なるものに就て、私は茲に少しく玄關からでなく、勝手口から其の內面を窺はうと思ひます。敢て他人の暗面を暴露して快を貪らうと云ふのではなく、假面を脫した裏面の眞相を知る事は今後お互の家庭に適切なる改良策、整理案を考究する一助ともならうと信ずるからです。

旦那樣は△△省にお勤めになり、畏きあたりのお覺えも目出度く、先頃までは朝鮮の李王世嗣御養育係りと云ふ大切な御役目を承はつてお出でになつた。つひ數年前に三四度目で高等文官の試驗がとれたばかりだのに、ズン〳〵出世して、今日では同省內でも幅利きの中に數へられて居らつしやる。何と云ふ幸運なお方でせう。お年齡はまだ四十の上が幾らも出て居ないと云ふに、全く感心の外ありません。

斯う云ふ家庭を吾々如き者の家庭に比較するのは勿體なう御座います。家庭改良、家庭整理を說く先生方のお狙ひになる家庭は、要するにこんな家庭ぢやなからうかと思ひます。成程表面から見れば、如何にも樂しく面白く、どんな改良でも整理でも、可いと云ふ事なら今日昨日からでも實行が出來さうです。所が其の假面をといふと案外な事實が現はれます。玉に瑕瑾とは此の事でせう。

▲旦那樣は數年前から　よからぬ女を御近づ

團體生活を欲求するは此時代の強い自然の衝動である。（日々）

●戰死者の遺族救恤

愛國婦人會東京支部にては毎年十一月より十二月にかけて戰死病沒せる下士卒の遺族の最も貧困なるものを調査し其困窮の度に應じて夫々救護し居れるが本年は例年に比して不景氣にて困窮せる遺族は心待ちして居るなるべければ一日も早く救護せんとて東京支部にて疾くに各區役所及府下郡役所に託して之れが調査をなし去る十一日より救護金を贈りつゝありて本月末までには結了する筈なるが貧困にて救護を受くべきものは三百五十八人救護總金額は三千四百七十八圓にして之を市部と郡部とに區別をすれば市部の遺族の人數と金額百八十三人の二千百十二圓にして郡部は百六十八の千三百六十六圓なり而して一家族にて最も多きは三十圓より最も少きは五圓までなり今各區各郡の人數及金額を擧れば左の如くなり。

區	人數	金額	區	人數	金額
		圓			圓
麹町	五	三七	神田	一三	一一九
日本橋	五	五八	京橋	一一	一〇五
芝	五	四七	麻布	一〇	八六
赤坂	六	七二	四谷	一二	一三〇
牛込	一二	一二一	小石川	一二	一五四
本郷	八	八三	下谷	一七	二四一
淺草	二八	三一七	本所	二五	三六二
深川	一三	一七〇			
郡	人數	金額	郡	人數	金額
荏原	一九	一二五	豐多摩	二〇	一九四
北豐島	二三	一九五	南足立	一二	一二四
南葛飾	一〇	九〇	西多摩	三四	二一九
南多摩	二五	二四四	北多摩	二四	一七七
小笠原島	一	三〇			

（家庭）

●結核患者結婚問題

ドクトル　竹中繁次郎氏

結核患者に結婚を許すべきや否や、此問題は人類の運命、家族の幸福に關するもので醫師の最も考慮を要する事の一ツとなつて居る。勿論進行性の病變を有し結核病が身體内に蔓延し衰弱の烈しいものは生命は風前の燈火と同一、結婚を論ずべき限りでない。只其病變が少なくて恰も健康者と間違ふ位の人に於ては醫師の念頭を惱ます問題となつて居る、即ち病變の進行が止り全身の狀態が好良になり或は發病以來少なくも三年問の後に初めて結婚を許すものとしてある、而して各場合の選定は通例尙ほ次の如き條件を必要とせられて居る。

▲戀愛結婚●●●●　愛の凝つて顯はれた所謂戀愛結婚では時として良好に作用することがある、予等の知れる場合の如きは結婚後之れが刺戟となつて疾病の經過が好良になる事があり斯る例は西洋の書物にも記載されて居る。併し結婚は許しても身體の勞働、精神の過敏に渉らしむる事は呉れ〴〵も愼しまねばならぬ、之に反しては嫌忌せる結婚の場合に於ては絕對的禁ずる方が宜しい、精神の鬱憂となりて不良の經過を取るとは爭ふべからざる次第である、故に此結婚問題は本人の意識に俟つの外なしと斷言せねばならぬ。

▲年齡の注意●●●●　年齡も考慮を要する必要の一である、これ弱年に於て結婚すると病變の增惡は中年のものより劇烈であるとされて居る、これ弱年に於ては生殖器の刺戟は偉大なる作用を身體に及ぼすものなると姙娠の機會を頻繁ならしむるによるものならん、姙娠の結核の病變を刺戟せしむるは追て論ずることもあらうが現に角醫界の定論として宜しい、結婚して姙娠すると否とは患婦の生命問題であるから、此點から結婚を否定する學者も少くない、併し畢竟出來得可らざる問題でもあらう、故に近來は性慾の經過を取らざる場合に限り結婚しても宜いとの說が高まり各條件の下に研究する樣に成た而して年齡の上より云へば三十前後の婦人は旣に結婚しても良いといふ事になつて居る。

▲患者の公開●●●●　若し一方が健康者であると患者の方は「自分が結核患者である」といふとを明言し承知の後に結婚せねばならぬ。殊に婦人が患者であるとせば一朝姙娠の如き危險が起り或は健康を傷ふた時、今迄潛伏或は停止せる結核病氣は爲に進行することがあるから、健康を急速に且完全に治癒せしむる必要あるからである、又男子は結核であるとせば婦人は常に自己の義務を考へて夫に靜なる安き家居を望み社會的物質的の責任を避けるやうに努めねばならぬ。

▲社會的位置●●●●　も考慮する必要はある、始終生活のために戰ひ糊口のために汲々とせるものは必ず結婚してはならぬ。これ往々精神は愚か身體組織に過勞を起して病勢を盛ならしめ死期を早むるものがあるから

である。

以上の事柄を概括して見ると、結核患者の結婚問題としては女は男に比し不利益なる側にあるので、共に三年以上靜止の病態にあるにあらざれば許容すべからざるは勿論、許容するも生活に窮せず一朝結核病變の進行上危險の起つた時に充分の保養も出來る社會上家事上の關係を有し三十年前後の年齡で且つ戀愛的でなければならぬと云ふに歸着する（中央）

●乳兒の保護

▲乳兒の病氣　確實な統計は判らぬけれど生れて一年位の子供の病氣に罹る數は非常に多く獨逸の醫學者は乳兒死亡一に對して二十乃至二十五位の患兒がある割合だと云つて居る。然し日本の乳兒死亡數は歐羅巴各國に比較すると餘程少い方である死因は種々あるが營養不良、乳の性質、氣候、社會の事情、境遇等が主なるもので七月末頃から八月頃にかけて夏の暑い時分に死亡するのが多い先天的弱質で死亡する者も隨分多いが病氣としては實扶丁里、結核性腦膜炎、百日咳等が多く殊に我國では流行性感冒で死ぬ者が一年間の乳兒死亡百分の三、一もあるこれは日本の醫者の中に學問をしない者又は診斷の粗末なのが多い爲であらうと思はれる。

▲歐洲と日本　十九世紀の末から歐羅巴に於て子供の出産率が漸々減少しつゝある事は事實であるが是に反して我が日本では西洋の樣に著るしく減つて居ない之は喜ぶべき事であるが子供の出産率は文明の進歩に連れて漸次減少する同じく我が日本の內地に於ても北海道とか東北地方とか比較的文明の進歩に遲れて居る地方は出産率が多く西洋地方に行くに從つて少い即ち野蠻未開の地方には子供が多く生れるのである又內閣の統計に依ると茨城縣地方には死産兒の數が特別に多い事が一見して判る元來出産數と死産數との比較は略決つて居るのに拘はらず同地の例は醫學上到底事實とは認むる事が出來ぬ是は實際の死産ではなく墮胎若くは其他の方法に依つて胎兒を暗から暗へ葬つて了ふ風習が今尙盛に行はれ居るものに相違ない。

▲乳兒保護院　兎に角乳兒の死亡率が漸々多くなると云ふとは經濟上、社會上、又政治上重大なる問題だから歐洲では國家公共團體或は慈善團體に依つて乳兒保護法が講ぜられて居る其方法は一、母親に乳兒を同一の家庭に住居せしめて保護をなす者二、乳兒のみを母親より離して保護院に收容する者三、母子共に收容保護する者四、母親の勞役中(即ち日中)乳兒を預り保護する者五、乳兒を母親より引離して篤志の寡婦等の經營せる家庭的保護所に託する者等がある獨逸伯林の乳兒保護院の一日の託兒費は十錢一週間前拂が日曜を除き五十錢である。

▲授乳奬勵金　文明國の婦人は漸次授乳不能となる者が多いので出來得るだけ之を防止する目的から乳兒保護院の附帶事業として授乳奬勵金を下附する事も行はれて居る更に我が國最近十年間の死亡統計に依つて見ると幼兒結核患者が非常に多く殊に女子は壯年に及ぶに從つて漸次其數を增して行く事は確であるトラホームの如き全く死亡者を出さない疾病防禦の爲に全力を傾け居るにも拘らず生命身體に最も危險なる結核豫防に就て未だ何等の方法をも講ぜられざるは甚だ憂ふべき事と思ふ。(朝日)

●裏から見た家庭

白菊女

▲現代の我中流社會　の家庭なるものに就て、私は茲に少しく玄關からでなく、勝手口から其の內面を窺はうと思ひます。敢て他人の暗面を暴露して快を貪らうと云ふのではなく、假面を脫した裏面の眞相を知る事は今後お互の家庭に適切なる改良策、整理案を考究する一助ともならうと信ずるからです。

旦那樣は△△省にお勤めになり、畏きあたりのお覺えも目出度く、先程までは朝鮮の李王世嗣御養育係りと云ふ大切な御役目を承はつてお出でになつた。つひ數年前に三四度目で高等文官の試驗がとれたばかりだのに、ズン〳〵出世して、今日では同省內でも幅利きの中に數へられて居らつしやる。何と云ふ幸運なお方でせう。お年齡はまだ四十の上が幾らも出て居ないと云ふに、全く感心の外ありません。

斯う云ふ家庭を吾々如き者の家庭に比較するのは勿體なう御座います。家庭改良、家庭整理を說く先生方のお狙ひになる家庭は、要するにこんな家庭ぢやなからうかと思ひます。成程表面から見れば、如何にも樂しく面白く、どんな改良でも整理でも、可いと云ふ事なら今日昨日からでも實行が出來さうです。所が其の假面をといふと案外な事實が現はれます。玉に瑕瑾とは此の事でせう。

▲旦那樣は數年前から　よからぬ女を御近づ

けになり、今日では、別に一戸をその女の爲に構へてあると云ふことです。所が其の女は、近來旦那樣の寵愛を持んで增長し、たまく奧樣がお留守にでもなるやうな時には、ノコく本宅へ入込んで來て何くれと旦那樣の世話を燒くと云ふぢやありませんか。私は、鬼刺神刹なる夫人と云ひましたが、假面一重裏の夫人は實に可哀想な御境遇にゐらつしやるのです。

▲花も月も心に愛ひ●●●●●●があつては何の樂しみがありませう。程近き〇〇公園の花が咲きましたから、一寸行つて見ませうと云つても、どうも氣が進まぬからと云つて、お若い時分あれほど活潑だつた奧樣が、浮かぬ顏をして一室に垂れ籠めてばかり居なさる其のいぢらしさ。つひ此方もほろりとして淚が湧ぐまれるのです。

此の奧樣が此程はじめて嫁ぎなさる妹御に對して「たとひ手鍋さげるとも夫婦仲よく暮すやうな所へ嫁け、決して黃金や地位名望に騙されて一生泣き暮すやうな所へ嫁つて吳れるな。」と淚ながらの御訓戒言葉は假令際席でも、此の人から此の言を聞く時、我々は千萬卷の修身書を讀むよりも一層深く感動するではありませんか。（淑女かゞみ）

○衛生

●酒と煙草の中毒

醫學博士　佐野彪太氏談

人體の神經系統を害する神經毒は數多あるが就中最

[illegible]

も多數の人を害するものは日常廣く用ひられて居る酒と煙草である。

▲酒の急性中毒●●●●●　酒殊に強い酒を非常に多く飮む時は劇烈なる中毒狀態に陷り眼は見えず耳は聽えなくなり倒れて氣が遠くなり食物を吐いたり知らずに大小便を洩したりする皮膚は知覺を失つて冷たくなり呼吸や脈の工合が惡くなつて來て此の儘死んで終ふ事が有る併しこんな急性な中毒は餘り多くはないが不知不識の間に害毒を蒙るところの

▲酒の慢性中毒●●●●●　こそ却て懼るべきである酒は血管を變化させるから間接に神經系統を害するばかりでなく其極要分子たる神經細胞等を直接に害するので長い間には種々の神經障害を惹起す即ち

一、腦溢血や血管の塞がる病氣が起て患者は即死するか又は手足の麻痺言語の不如意智力の減退等で惱む事がある又腦に出血性の炎症等を起して頭痛や眩暈がしたり步行が出來なくなつたり囈語を云つたりして居る內に段々惡くなつて發病後一二週間で死んで終ふ事もある又慢性の腦膜炎に起して痴態に陷る事もある。

飮酒は癲癇と密接の關係がある成年者に之が原因となつて始て發する一種の癲癇がある飮酒家の子孫には癲癇患者が多い又癲癇患者が酒を飮めば病狀が惡くなる飮酒の結果神經衰弱患者の樣になつて頭痛がしたり頭に重い物が乘つて居る樣な感じがしたる動悸がし汗が出めくなり指先口唇舌等が震へ口が何時でも酒臭く食慾が減つて朝起きた時に粘液を吐いたり情慾が非常に高まるか又は衰へる此の外物事を不安に思ひ又は恐るゝ傾が出來て氣分が沈み勝ちで遂に不眠症に陷る事もある。

又飮酒の結果で人の腦力を滅殺し注意力や記憶力の漸々減つて行くのは勿論であるが遂には其人の性質や擧動が一變して倫理上非難すべき人間になつて終ふ例へば怒り易くなる爲に喧嘩好きとなり往々腕力沙汰に及んだりする又は己の義務を忘り物事に對し興味利害を感ずる事が少くなり妻子に對する愛情等が減つて來たり風俗を亂す樣な行爲を敢てする樣になる一層甚だしくなれば種々なる精神病を惹起し或は馬鹿の樣になり或は自殺を企て其の外種々の狂人固有の行爲をする樣になり。

二、脊髓が犯されて脊髓炎を起し體を動かす事が出來なくなり大小便を出す事が不如意となり年中病床を離れなくなつて床擦れ等が出來て死すことがある。

三、身體の部に頒布して居る神經が犯されて皮膚及筋肉に痛を感じたり又は手足の一部等が瘦せる事がある

四、五官器が犯されて物の味や香りが分らなくなり音を聞く力が減り眼で物を見る力が弱くなつたり物を見る時に中央に黑い點等が見えて來たりする事がある昨今八ケ間敷いメチール、アルコールが酒の中にあれば眼に對して一層強烈なる害毒を及ぼすは人の知つて居る通りである。

酒は神經系統の外種々の臟器を犯す飮酒の爲に咽喉氣管支を損じては聲が嗄れたり咳嗽が出たりする腹胃を惡くしては食慾が減り食物を吐き便通の丁合が惡くなり稀には食道癌や胃癌に罹る事等もある心臟や血管の病氣肝臟病腎臟病等にもよる事がある。

▲絶對に禁酒すべき場合●●●●●●●　最も多く酒の害な

蒙つて居る國は露西亞である、聖彼得堡で慢性中毒の結果で死ぬる者が毎年三百人を下らぬ。中毒に罹る年齢は三十歳から五十歳位迄が最も多い。怪我をした後は酒に對する神經の抵抗力が特別に減少して居るから此の際の飲酒は殊に有害である又飲酒家の子孫は前述癲癇の外精神病になり易い。學問の進むに連れて益々味の良い酒等が造り出さるゝ今日の世の中で食卓上の一要品たる酒を藥用以外には嚴禁して人間社界より殆んど放逐すると云ふ事は勿論出來ぬ話であらうが、只之を亂用してはならぬと云ふ事を片時も忘れてはならぬ、即ち一時に大量の酒を飲む事は勿論の事小量でも持續して毎日用ふる事は避ければならぬ、毎日食後に消化を助くる爲に酒を四五杯宛飲んでも決して病氣になる氣遣はないと思ふて居る人が往々あるが却々そうは行かぬ、一回の分量は少くとも兎に角酒が毎日體の中を巡るから神經が自然に害さるゝ譯である極少量を用ひて居れば先づ間違は無いが、神經質の遺傳ある人や、酒の爲に非常に興奮する人や、負傷したる人等は自己及子孫の爲に絕對的に禁酒せねばならぬ、又前に述べた樣な中毒症狀を自覺する樣になるのは既に中毒が可成の程度に達したる時であるから、こんな時は直に相談をして一層烈しき中毒に陷らぬ樣に豫防する事も必要である。次に

▲煙草の急性中毒 に述べよう、始めて強い葉卷煙草等を多く吸へば烈しき急性中毒を起し物を吐ひたり、下痢したり、眩暈がして冷汗が出て、痙攣たり譫語を云ふたり、人事不省に陷り、息が止つて死ぬる事もあるし又は此の狀態より快復して治る事もある。こんな事は先づ稀である。吾々は酒の場合と同じく

▲煙草の慢性中毒 を蒙らぬ樣にする事が肝要である、人體は煙草には幾分慣れて來るから吸ふた分量の割合には害さぬけれども煙草を吸へば永年の後には矢張慢性中毒に罹り大害を受くる樣になる、即ち神經系統中の血管に變化を受くるが故に間接の腦溢血、癲癇等を起す樣になる又其の人は腦が惡くなつて、頭痛がして頭に重い物が乘つてる感じがし、眩暈がし、手足が顫へ、神經性に動悸がして、心臟の部分に刺す樣な痛を感じ、脈の搏ち方が不規則になつたりする、耳に異常の音を聞いたり、眼の前にチラ〳〵する物が見えたり、殊に眼で物を見る力が酒の時の樣に弱くなる、又怒り易くなつたり、體が惰い爲に仕事をするのが厭になつたりして、精神が沈鬱して來る、尙又た神經系統の外呼吸器を害し咽喉が痛くなつたり咳嗽が出たりする、胃腸を惡くして腹が空かぬ樣になり、物を吐たり、下痢をする。

▲酒客と他の二弊 此の故に強い煙草を吸ふ事、弱い煙草でも多く吸ふ事、永年間續けて吸ふ事は皆宜敷ない、外の者は何んでも止める事が出來るが煙草許りはどうしても止められぬと云ふ人が往々ある、斯うして此の惡習慣の奴隷たる境遇より脱する事が出來んで、遂に其の中毒に陷るは如何にも意志の薄弱な話である、酒客は大槪は盛に喫煙もするし加之大槪は情慾にも耽り過ぐるは醫者の認むる事實で斯んな人が自己又は子孫の神經を損傷して、國民中に腦力の弱き分子を作るは慨嘆すべき事である。(國民)

（○料理の栞）

●麥の變り御飯に就て

婦人記者

我國の風土病の内で、最も恐しいものの一つは脚氣でありますが、この病氣にかゝつた人々の治療法として、或は又豫防として最も適當なるものと、今日思考されて居りますのは、玄米飯と麥飯とであります。

▲大隈伯の御說 に由れば、一體日本人は御飯と御菜を別々に煮炊して別々に戴いて居るから、米は上白とか一等米に限るとか、或は半搗米は不味いといふ贅澤なもいふ樣になる、之を諸外國の例に倣つて御飯と御菜とを一緒に炊いて、何ぞ美味しく食べられる工風をしたならば身體の爲にもよし、又經濟にもなる事であらう、殊に日本婦人には消化も良く値段も安いといふ豚肉の常食を進めたならば顔にも艶が出て來てモツト美人になるのであらうと申された事があります。

▲で、記者が一日 東京割烹女學校に秋穗氏を訪れ是等を鹽梅して麥飯嫌ひな人々でも戴ける樣な新式の變り御飯を考案して見たのを御紹介いたしましやう

▲先づ豚を七十目 ばかり極細かく切り、蕗を輕く一握り程を茹て皮をむいて細かく刻みまして鍋に醬油一合、酒一合、砂糖大匙一ぱいを入れて沸騰した時に豚を入れ、又一沸かしして蕗を加へてチョット煮まして から其汁を全部絞り上げた者に水を入れまし

て、之を一升三合にした其汁を釜に入れて騰した時に五六時間以前から冷してある丸麥三合を入れて五六分間煮てから、之に白米七合を混ぜ釜の中を凹字形にならして蓋を着せてから五分間過て火を消し十五分間蒸しましてから、御櫃に移します時に前の豚と蕗とを混ぜ込むのであります。

▲但し是は御飯一升の割合を申したのですが斯樣に丸麥を別に煮ませんで御飯と一緒に炊き込みに致しましたものは麥本來の滋養分を失ふ事がありませんのみならず手數もかゝらず經濟にもなるといふ事を申添へて置きます。

肉の食ひ頃

▲農學博士澤村眞君 「近年強壯劑として肉醤を飲用するが、肉醤は牛の血肉(赤い部分)を極めて薄く切り、寄生蟲を殺す爲めに鐵網の上に上せて兩面から少し火を入れ熱い中に手早く壓搾器にかけて液汁を搾り出し、其の液汁に食鹽を加へるか或は其の儘湯煎にするか、或は牛乳などを混ぜて用ひるのであるが、其の尊い處の液汁は即ち前に述べた肉の纖維の中に入つて居る汁液であります、肉にはミヨシンと云ふ蛋白質がありて動物が死ぬれば之が凝まる、死後硬直と云ふ現象は之れが爲め起るもので、硬直した肉は硬いから殺したての獸鳥肉は通常賞美されない、併し時を經ると肉の中に乳酸と云ふものが澤山に生じて其の作用に依てミヨシンが溶けて肉が好い加減に軟かになるが、更に時を經つと腐敗して仕舞ひます、肉の種類と氣候の關係とに依て一樣には云はれないが牛肉ならば屠殺後五日乃至一週間、豚肉ならば三日乃至五日、鷄肉ならば二日乃至三日位が適度であらうと思はれます

▲歐米人は肉類は總じて屠殺後一週間は吊して置くやうだが、兎は二週間、クリスマスに賞用する吐綬鷄の如きは食用三十日も前から潰して置くと聞いて居ます、概して西洋では吾れ吾れならば腐つては居まいかと怪ぶむ位の臭氣のするのを平氣で食用して居る丈けは事實であります、肉の食ひ頃は軟かになつて腐敗迄に至らぬ時であらうが之を知ることは一寸面倒である、又た匂ひを嗅いた許りで腐敗の程度の分らぬことがあるが、一般に肉が腐敗し始めるといやな變つた臭味を感じ肉の外面には紫色、靑色、綠色などの汚い色が現はれ、指頭で以て壓して見ると彈力がなくなりて其處に孔が穿くやうになります、牛乳豚肉などの怪しいと思つた時は試驗紙(藥店にて販賣して居る)を肉の斷面に附けて見るがよい、極く新しいものは赤色試驗紙を靑く變ずるが時を經れば靑色試驗紙を赤く變ずる、更に進めば再び赤色試驗紙を靑く變ずるやうになる、此時は全く腐つたのであるから諦めてお棄てになる方がよろしいです、しかし新鮮と云ふことは衞生上至極結構なことではあるが、肉ばかりは新鮮の名に驅られて潰し立て直ぐ食用するのは風味の上損となります、地方は勿論東京市中と雖も鷄や鴨などは多くは潰し立てのものを食膳に供して居るが此の風は食味の上からは損な事です」。

○臺所重寶記

▲蜆を生かしておく法 蜆はいくら新らしく水を取代へても、ぢきに死んで困るものであるが、之は蜆を買つた時、桶なり笊なりに入れて水をかけ、すぐ又水をきつておく。そして貝が乾いたら、又前のやうに水をかけておくと、幾日經つても丈夫に生きて居る。

▲豆腐のお團子 お豆腐を一丁布巾に入れて堅く水氣をとり、之に馬鈴薯三つを卸し金でおろしたものを入れ、それに卵一個を混ぜてよく擂ります。混つたらば掬ひあげて、適宜の大きさに丸め、煮立たせてある熱湯の中へ入れ、浮上つたら皿にとり、別に此の團子一つをといて、醬油と砂糖で味をつけた汁を拵へておき、團子の熱いのにかけ、靑海苔をふりかけて食べると、一種云はれぬうまい味ひがある。

▲栗の澁をとる法 栗は茹でゝもなかなか澁が取れないものであるが、茹でる時に、鍋の中へ醬油を一二滴たらして茹でると、容易く澁を拔くことが出來る。

▲髮と顏の洗ひ方 髮を洗ふには、ふのりとうどん粉がいゝ。できるなら少し惡くなりかゝつた玉子を使へば、なほ結構である。湯を沸すのが面倒だつたら、洗粉で洗つて二度も滌いだら、毛を絞つて、手拭の間に入れて、チヨツとおばこに結んでおいてお湯に行き、そして洗ひなほすがいゝ。毎日顏を洗ふには、水道の使へない人は、前日のお米の磨ぎ汁を洗面器に入れてとつておいて、七輪のほとほりに載せて溫めて使ふと、洗粉よりも石鹼よりも結構である。

▲ヒヾとシモヤケを防ぐ法 手は汚れたら直ぐ洗はねばならぬ。けれどもよく氣をつけないと、忙しまぎれに濡手で居るやうな事がよくあるが、手をヒ

どだらけにしたくないと思ふ人は、常にタオルを用意して、水仕の度毎に必ず拭くのを忘れてはならぬ。湯上りの時と、朝の用の終つた時と、晝の用の終つた時と、洗濯した時と、裁縫にかゝる前と、夜眠の前とに、必ずヘルツ水か、ヘルツ水代用の前の水を手に塗ることを忘れないやうに、手が冷たくても、火にあまり當らないで、皮膚を擦つて暖めるやうにした方がいゝ。ヒシモヤケには、アンモニアを塗るのが一番である。ヒどの切ない人は、シモヤケができ易いもので、殊に子供は難儀なものであるから、早く崩れぬ内に手當をしなければならぬ。萬一崩れたならば、里芋の皮のまゝ燒いて、脫脂綿を延ばして張りつけ、むづ痒くなるまで離さずにおき、痒くなつた時自然に剝がれるのを待つて綿をとると、シモヤケは綺麗になほつて居る。

◦茶ばなし

●六千年前の葬式

▽奇怪なる風葬
▽佛國學者の研究

佛國では現在土葬を以て正式として居るが、以前は火葬も隨分行はれた。我が國でも又た他の國々でもこれと同樣に火葬の時代もあり、土葬の時代もあつた。而して世界各國を通じて火葬は最も近い時代に始まつたもので、土葬はそれより古く一般に行はれてゐた。まてこの火葬でもなく土葬でもなく、六千年以前の大古時代には、如何なる方法で死屍の始末をしたか。之を研究したのは、巴里の前歷史學會書記長マルセル、ボードイン氏である。ボードイン氏の研究の結果によると、太古の人類は風葬とも云ふべき方法を用ひたものらしい。

▲古代の人骨●●●● を掘出したものを見るに殆んどただ頭蓋骨ばかりで、他の四肢の骨、脊髓骨等は、別々に散亂して居る。氏は更に研究の步を進めて、此の頭部と體軀との別々になつて存在するのは、當初わざわざ別々にしたものであることを明かにするに至つた。即ち

▲風葬の方法●●●● は此の事實から推究したのである。其方法には地上に或る高さに樹の小枝を以て、床を組み、其上に死屍を載せ、其上を更に小枝を以て覆ひ、或る期間風雨に晒らし、其筋肉の腐敗し去るのを待ち、小刀やうのもので、頭部と體部とを切り放す。そして體部はすべて誰彼の區別なく混交堆積して置けど、頭蓋骨丈は鄭重に保存するのを例としたものらしい。古代の人は首と胴とを切放す事を何とも思つて居らなかつたらしく、西歐のみならず、露國や亞細亞等にも此の風があつたやうである。露國の古風には死屍を四十日間地上に晒して終りの日に家族が最後の「別れ」を述べて葬むるのであつたさうだ。

●巴里の乞食新聞

世界の新聞紙のなかで最も珍らしいのは、巴里で半季半季に發行せられる「乞食新聞」だらう。これは乞食仲間の限られた部類だけに配送せられるものらしいが見たところ新聞の各面は廣告が一杯で、その廣告も「笛を吹く盲目の男雇ひ度し。」「有福な地方に物貰ひに出掛けるべき躄者雇ひ度し。」「右手の無い者至急入用」といつたやうな類で、雇はれる者は身元引受人が必要なのださうだ。新聞はまた貰ひの多い地方を時時報道する事を怠らぬ。寒空になつて貰ひに出掛ける時には、それ相應に身窄らしい餘外行衣が要る、そんな物の貸出しをする所も絕えず掲載する。人氣のいゝ、仕拂の綺麗な乞食は結婚式や、葬式などの立派なのがある度に特別に新聞紙から報告が得られる事になつてゐるさうだ。妙な新聞紙もあればあるものだ。（朝日）

●不都合な名前

京都帝國大學總長理學博士久原躬弦君といへば、鳥渡六ケいし學者のやうに聞えるが其實書生時代から名代の惡戯者、ソレがため巡査の厄介になつた事まである。其時、巡査が型の如く住所姓名を尋問に及ぶと、久原君澄まして、「クーハラ、ミツル」ですと答へた爲め「何だ、空腹滿、そんな名前があるものか、其方は本官を侮辱するのじやな」と大立腹其處で懷から名刺を取出して見せると、巡査も思はず苦笑して、「成程クーハラ、ミツル、不都合な名前じやなア」

●往復切符

夫婦喧嘩に慣れ切つて居る妻
「其んな事をおつしやるなら只今限り離緣して頂きませう是れから直ぐ里に歸ります」
夫憤然として蝦蟇口から金を出し
「よし此金は汽車賃だ之を持つて直ぐ里へ歸れ」
妻「これでは往復切符は買へないぢやありませんか」



不貞潔が生みし人生の悲劇

贊助會員　角谷和市

時日	當事者	原因	結果	事情
十一日	千葉縣檢見川町 武藤春次(二四)(土工)	情婦の競爭から	殺人	仕事先より歸宅の途中かれて情婦の競爭にて互に憎み居れる齋藤彦七なる仲間の土工と五寸餘りの匕首を揮ふて斬合ひ、彦七は春次の右手及大腿部を突きたるに、春次は斬られた刹那彦七の左胸部を抉り心臟を刺して其場に殺害し、土工事務所に驅け込み疵の手當をなし高飛せんとする處を事務員に押へられ、直に千葉署へ自首。
	同町 齋藤彦七(二三)(土工)	同上	殺害さる	
同日	府下南足立郡西新井 佐藤粂太郎(五七)	我子の放蕩と不孝から	實子殺し	長男傳藏が放蕩無賴にして、酒色に耽り親を困らすより、薪割を以て傳藏を撲殺し、懲役三年に處せらる。
	同 佐藤傳藏(二七)	放蕩と親不孝にて	撲殺さる	
十二日	群馬縣富田町 清水要作(三〇)	妻の不品行を憤りて	妻子四人斬	妻のお力が隣家なる高橋安吉と通じ、十日夜安吉宅にて痴話狂ひゐたるを發見し、翌日離緣話となり、妻の不埒を憤慨の餘鋭利なる剃刀を以て熟睡中のお力の咽喉部に斬付瀕死の重傷を負はせ、更に眠りゐたる長女お熊、長男時松、次男雄三の三人の咽喉部に斬付け自分は井戸に投身したるも死に切れず附近の人々に救はれ檢事局へ。
	妻お力(二九)	不品行	瀕死	
	長女お熊(一〇)	母の不品行から	同上	
	長男時松(六つ)	同上	同上	
	次男雄三(二つ)	同上	同上	
十四日	芝郵便局 齋藤金次郎(四五)(集配人)	强姦未遂	捕縛さる	芝濱松町三ノ一七裁縫教授小田お輕方へ配達に行き、お輕長女お由加(八つ)を捉へて怪しかる所爲に及ばんとして捕へらる

日	住所・氏名	原因	種別	摘要
十九日	下谷區練塀町 内田弟五郎(二三) (菓子商)	放蕩にて逍ひ込	自殺未遂	馴染なる吉原角町新中米樓の娼妓大和事古川お蝶(二四)を對手に遊興し、大和が出て行きし隙を窺ひ亞砒酸を多量に服し苦悶し始めしより大騷となり、手當の効ありて生命には別條なし。
二十日	横濱市吉田町 佐々木小三郎(三一) (雜貨商)	放蕩の爲め養家に不義理となり	自殺	小三郎には養母さく(五八)妻うた(三〇)の外に五人の子供もあり可なり手廣く營業して居たが今年の五月頃から喜多八に馴染み養家の金を散々費用し養母の手前も段々不首尾になつた處から去る五日多額の金を持出し東京へ來て芝浦藝妓の喜多八と遊び廻り十八日夕横濱から小三郎を捜しに來た親戚の二人が漸く同人の森ヶ崎に居ることを突止めて來り座敷に通づたのを喜多八と共に近所を運動して歸つて來て見た小三郎は物をも言はず便所へ驅出し行き所持の昇汞水をガブリと呑み忽ち苦悶自殺。
廿一日	清國直隷省黄昌生 漢國俊(二二) (清國人)	藝妓に迷ひて	情死	家には數萬の資産あり少年時代より日本贔負にて大連武備學堂教師浮戸歩兵少佐のボーイとなり苦學せる事もあり終に早稻田大學に留學し卒業の後北京政府の通譯官となりて革命亂まで勤續して職を止め本年五月父の許しを受け一千圓を懷中して日本に來り當地に滯在中市内料理店松亭の抱藝妓若松(一八)と惡縁繋がり其後情交ますく\募るにつけ所持の金子も大抵費ひ果し兩人とも不義理の借金嵩みし爲め世を果敢なみ廿日午前一時頃手を携へて道の尾に行き合意の情死を遂げたるものなるべし。
	長崎市松亭抱 若松(一八) (藝妓)		同上	
廿二日	深川區西大工町 松本寅五郎(三九) (鳶職)	白首にはまりて金に困り	窃盗	昨年秋以來淺草千東町二丁目百二十番地銘酒店鶴龜事河合トメ方の白首中村ハツ(二八)の許に通ひ詰め金に困りて惡心を起し親方なる深川西平井町の鳶職村越政吉方に忍び入り現金八十五圓卅九錢銀側時計銘仙衣類等代七十四圓を窃取し其足にて鶴龜方に赴きハツを三十七圓にて身請し衣類を着飾らせて諸所を見物し淺草千東町一丁目花井仙太郎方に潜伏し居たるを昨夜洲崎署の古澤刑事に取押へられ十日例の處へ。
廿三日	住所不定 水越盛徳(二一) (苦學生)	酌婦の色香に迷ひ	强盗	同人は去る四十二年五月神田錦町一丁目一番地下宿業錦城館に止宿し正則英語學校に通學せしも學資の不足なるより同年十一月印刷局の職工となり日給五十錢を貰ひ苦學し居たるが何時か酒色の味を覺え四十三年十二月解雇されて各所の緣日を化粧品を賣り歩き漸く糊口し居る内淺草公園第六區の銘酒店濱迴家の酌婦鈴木ヒサ(一九)の色香に迷ひ惡心を起し日本橋區鐵砲町萩原常吉方裏手雨戸を破り七寸餘の短刀を持つて押入り家人を脅迫し現金八圓と衣類雜品五十餘圓を强奪したるが、日比谷公園

に於て捕はる。

日	住所氏名	原因	事件	記事
廿四日	深川區千代田町 三澤サト(一八)(女中)	父母の不品行を諫むる爲	投身	父清吉は鍛冶職にて一圓の稼ぎをなし母キヨ(三八)も女人足にて一日四十錢の取前なるも夫婦揃つて大の吞助に稼いだ金は殘らず酒代となすのみかサトを奉公に出しては其給金は前借し之さへ酒の代となし剩さへ度々主家へ給金の前借を申込むより何れにも永く奉公は出來兼ね此模樣にては他へ縁附く事抔思ひも依らずと世を儚み此上は自分死して兩親を改心させんとて今午前一時頃自宅を脱出し向島新小梅町一先枕橋際八百松裏手より隅田川へ投身し浮つ沈つ流れ行くを通懸りし本所區中の郷業平町猪狩熊藏(三五)寺島村俥夫田邊福太郎(四一)の兩人が夫と見て河中へ飛込み救上げ向島署へ連行き岩倉醫師の手にて手當を加へ清吉夫婦を呼出し嚴重に説諭を加へて引渡さる
二十五日	本所區横川町 新井ハナ(一八)(淫賣婦)	密賣淫にて	八十三回目の拘留	前科八十二犯の淫賣婦綽名泣花事新井ハナは常に自宅に四五名の淫賣婦を置き原庭石原通より遠く淺草公園迄網を張りて旺に風俗を壞亂し居たるが昨夜十一時頃には淺草仲見世より南葛飾郡奧戸町字細田船乘増田辛太郎(三八)を自宅へ引張込みで賣淫中原庭署の手に捕はれ八十三回目で廿九日の拘留
二十六日	井上馨(侯爵)	藝妓に手を出したが因果にて	醜業婦の腹に私生兒が出來た	幾度か死生の間に出入したる壯年時代は惜措きツイ先年も醫者に匙を投げられたのを盛返して却て閻魔樣に匙を投げさせた程の達者が自慢の井上老侯、昨年の春木挽町のよし野家にて赤坂林家の林子に強い執心其後歴築地の猩家や前記のよし野家へ召寄せられた結果林子の腹は忽ちパ式飛行行船の向ふを張りて當人は天へも登る喜びに一時田町六の一へ別家して養成中本月十日女兒出生(朝日新聞)
	赤坂林家 林子(二七)(藝妓)	浮氣にて男親が判然せず	私生兒の始末に窮す	女の兒が生れてオヽ出來したと褒められる筈が其處は老侯早くも林子が昔の浮氣から幾和宮や某公爵との關係をも耳にして貸家札を斜に貼るやうな彼女の腹が何で的になるものか俺の子ではなからうと取合はず其證據には些とも似て居ないとの挨拶に林子も呆れ返りアノ御前に似た女の子なら早速見世物だと口惜しがつて飽迄落胤の始末方を迫る筈だといふが此筈は道理千萬の筈なり(同)
二十七日	本郷元町川上理髮店 川崎信太郎(二二)(理髮職人)	放蕩のため借財の不義理にて	一人心中	は馴染なる吉原京町相萬樓娼妓美島事谷口お豐(二六)を敵娼に遊蕩し美島の熟睡せる隙を窺ひ西洋剃刀にて我と我が咽喉部左側を二ケ所突き鮮血迸りて美島の顏にかゝりしより驚いて眼を覺まし日本堤署に訴へ出で手當を加へしが生命は覺束なからん同人は栃木縣今市町生れにて一昨年二月中前記川上方の職人に

				住込みしが生來放蕩者にて、諸方へ不義理の借財を生じ首も廻らずなりしより、十五日剃刀を懐中して主家を飛出し所々徘徊したる末、十六日夜十一時六回目にて美島の許へ登樓し前記の次第に及びしものにて、樓主も呆れて引取らぬより養育院へ送らる。
二十八日	日本橋濱町長田方　淺野　昱(二〇)　(大學生)	娼妓に迷いて	窃盜となる	宮城縣牡鹿郡稻井村字澤田淺野昱(二〇)は仙臺中學を卒業し昨年五月中上京し神田區仲猿樂町下宿業淺逕館へ止宿し同區錦町某私立大學へ入學し勉學中本年四月中郷里より情婦なる千葉キヨ(一八)と云ふへるが尋ね來りしに乍ち學業を打捨て日夜キヨと市内を浮れ歩き居る内早くも此事が郷里へ知れ學資を杜絕され進退谷まりしよりキヨを郷里へ返へし昱は日本橋區濱町一の三飲食店業長田久藏方の息子となり再び中央大學へ通ひ居る内本年八月中より吉原揚屋町の貸座敷一月樓の娼妓三ッ扇(一八)の許へ浮れしが病附となり金に困る處から惡心を起し本年八月十六日午前十一時頃同區橫山町の出火の際同町二の十七左近司義弘方へ手傳に赴き奥の箪笥の抽斗より金側十四形女持時計プラチナの鎖寶石入の金メタル金鎖代價七百圓を窃取し贓品を本郷區駒込追分町廿七質商山中正次郎方外二箇所へ入質し三ッ扇の許へ浮れてる事發覺し廿四日兩國公園にて久松署の調所刑事に押へられ廿五日檢事局へ送らる。

附記

以上は唯十一月下旬のに於て都下の新聞にあらはれた者を拔いて見たに過ぎない。道德事件の報道は東京新聞よりも地方の新聞の方が多く掲げてゐる事はいふ迄もないが、一々地方の新聞を取るといふ事は不可能な話であるから、會員諸君にして地方新聞に現はれた此標題に合した記事は御手數ながら切拔いて本部宛御送付を願いたいものである。私は此戦慄すべき統計から數へらるゝ事が決して尠少ではあるまいと信ずるのである。

廓淸會紀要

▲秋田市に於ける廓淸演說會

十一月十八日より廿五日に亙り、益富常務理事は鐵道巡回講演の序を以て大に東北地方に廓淸運動を試みた。中に就きて秋田市に於ける氏の演說會は最も大なる反響があつたらしく、主催は秋田市の靑年會で、會長市川護幸氏を初め、幹部の諸子も皆出席して富貴見樓で開いた他に高橋辯護士及び有志數名の演說があつた。

益富氏は「男女問題」と題して一時間餘の演說をなし、集會後は有志者と同じ問題に就き懇談する處ありて、十二時前に散會した。

翌日から秋田魁及秋田每日の兩新聞は何れも四日間に渡つて演說筆記を載せたこゝに於て遊廓の恐慌を來し、即ち遊廓の代表者は魁新聞の主筆に面會を求めてその苦境を訴へた。要之、貸座敷營業は近來段々さびれつゝある、殊に先帝陛下崩御後世は諒闇中の事とてさなきだに困つて居る矢先、承はる所によれば御社は救世軍にたのまれ警察官と提携して廢娼運動に骨折られるとの事ですが、これは是非御勘考を煩はしたいと云ふのであつた。これはつまり兩新聞の四日間に渡る演說筆記を見て直に廢娼黨の機關であると見てとつての恐慌である。

その後更に反響現はれ、靑年會の幹事で魁新聞の記者であつた石田豐天君が東京に轉せらるゝやうなつたゝめに上京の行李を納むるに忙しいその前日秋田市長の令孃大久保道子女史は親しく石田君を訪ねて是非秋田にも廓淸會の支部を置く事にしたいと云ふ希望を述べられた。

それから美以敎會の牧師平川某君、早川眼科醫夫人早川かい子氏及び鑛業新聞主幹で、靑年會の幹事である泉谷兵吉君など最も熱心である。

秋田市の望むところは來春早々盛大なる發會式を擧げて正々堂々と公娼廢止の狼煙を擧げやうと云ふのである。

▲能代に於ける廓淸演說會

能代に於ける演說會も亦なか〳〵盛會であつた。實に能代に於ては先頃能代遊廓が全燒にかゝりし際、能代靑年團が主唱となつて遊廓移轉問題のために奔走して居る頃、益富理事はこれが應援のため出張する筈であつたが差支が起つて到頭行く事が出來なかつたのである。

而して今度の演說會は即ち其靑年團の主催で開かれたのであつた。演說者の石田豐天氏と益富理事とが能代に着くと、北羽新報社長島田豐三郎氏能代靑年團長西村敬治氏その他の有志は停車場に兩氏を出迎へ相伴なうて能代偕樂社に赴き其歡迎晩餐會に出席し、その後演說會に移つたが、土地の敎育家の主なる人々或は銀行業者その他此町に牛耳をとつてる人々は大抵出席し、近來稀なる盛會であつたと云ふ話であつた。

先づ最初に西村靑年團長の開會の辭が

あり、次に石田望天君は「青年は須らく風儀刷新の先鋒たる可し」と題して演說をなし。益富氏は「風紀廓淸と遊廓問題」と題し先づ能代遊廓全燒の際、彼地の靑年團が社會風敎のため奮然起つて遊廓移轉運動を開始しその効によつて今日能代遊廓を町外に移轉せしむるに至つた功を賞揚し、次に各地に於ける靑年の矯風運動の成功を述べ、更に遊廓問題に轉じ丁度二時間に渡る長演說をしたさうだ。

それが終ると今度は後の會、即ち懇談會、質疑應答會にうつり、公娼廢止後の善後策、その他あらゆる質問に應答し會衆をして充分納得せしむるところがあつたといふ。

西村靑年團長は、公娼廢止は、道德上人道上、眞に必要な問題ではあるが、併し實行上には頗る困難の問題であると思つて居たが、質問會に於て釋然たるものがあつたと益富氏に語つたさうである。而して西村氏は愈々以て決然立つて、今後益々積極的に社會風敎のために盡力するとの事である。

その結果として先づ第一に起つたのは名擧同盟である。即ちアライアンス、オフ、アーナーの組織で、これは英國靑年の間に盛んなるものである事は讀者の既に了知せらるゝ處である。日本にはまだ名擧同盟として組織せられたものはなかつたが、今般、能代の靑年團が彌他に率先してこれを組織し、先達嚴なる式を以て各自誓を立て之が設立發會式を擧げた。その規則の要領についてはこの雜誌の編輯迄には聞く事が出來なかつたが要するに靑年先づ自らを淸くし、而してこれを人に及ぼし、更に進んで社會を廓淸して行かうと云ふのである。

一體この能代は秋田縣の一港であつて秋田は由來娼妓の本場として知られて居り、殊に能代は船つき場所であるからして最も淫風の盛なるところとして評判されて居るのである。而かもこの靑年の間に名擧同盟が成つて、先づ自ら純潔を保ち、人をして純潔に導かうと云ふ運動の起つたと云ふのは、能代町のために祝し且又社會風敎のために大に祝す可き事であると思ふ。吾々は滿腔の誠意を以てこれが發達を祈るのである。

なほ序ながらこゝに報導す可きは能代に於ける唯一の新聞たる北羽新報が常に靑年團に同情して殊に靑年のかう云ふ方面の運動を助けてくれると云ふ事である之は特記して感謝の意を表せなければならない次第であると思ふ。殊に世の新聞がその三面記事と云へば、いつも風儀紊亂の魁となつて居ると云ふのがなか／＼多い世の中に、北羽新報が自ら立つて此種の主唱を貫かんとするその高潔なる態度に至つては天下に向つて大に稱揚するに足りると思ふ。

▲弘前市に於ける運動

弘前に於ける集會は何分その日の午后四時から準備にとりかゝつて、而して六時に開會しようと云ふのであるから、事情盛なる集會を催す事は出來なかつたさうだけれども山鹿牧師並に工藤禁酒會長、某中學敎師、高谷婦人矯風會長等集られて充分とまでは行かずとも一通り廓淸會の主意を述べる事も出來、これも亦弘前に於けるこの運動の準備の一つとなつたと信ずる。

牧師山鹿氏會長工藤氏は自ら先鋒となつてこの運動を起すに躊躇されない熱心を有つて居られる。○○中學敎師の語るところに依ると同地の中學の二年生三年生で遊廓に行かないものは少い位であると。吾々は之等の話を聞くにつけても、斯地に於て益々廓淸運動の必要を感ずるものである。

▲青森市に於ける運動

青森ではあまり氣候も好くなく、殊に雪ふゝきで非常に寒空であつたから敎會などで集會をしても、大した會衆を得る事も出來まい。それよりも寧ろ有志の諸氏と懇談會を催して、膝を突合はして、シンミリとこの問題について研究して見るならば、その方が却つて有益であらうと思ひ、鐵道院の青森保線事務所長技師松永氏の宅に於て研究的懇談會を開いた。これも丁度十二時近くまでかゝつた。

假に松永氏は存娼論の立場で益富氏は廢娼論の立場に立ち、松永工學士の最も巧なる殊に組織的の頭を以て擊ちかゝつて來られるところの難問題に對して一通り答へて見た、この研究會は餘程我黨のためにもなつた。つまり此演習戰の結果最早存娼論決して恐るゝに足らぬ。吾人の戰は必ず勝戰、明々白々であるとの自覺を得た。同會には「陸奥日報」の吉井主筆とメソヂスト敎會の牧師栗山氏、監督敎會の牧師、及びメソヂスト敎會の執事等も出席され、諸子のためにも必ずや益する所あつたに違ひないと信ずる。只遺憾なりしは鐵道院青森運輸事務所長の兒井英松氏が出席の約ありしにも拘らず、公務の爲め臨時盛岡へ出張の用起り遂に不得止缺席された事と東奥日報の記者も會場を取違へて出席を希望されつゝ遂に間に合はれなかつたとである。

▲盛岡市と仙臺市

盛岡では餘裕なくして何にも出來なかつた。只盛岡の幼稚園で幼稚園の生徒に對して一場の話をしただけであつた。けれども同地に着いた時停車場迄出迎へて下さつた婦人矯風會の會長佐藤氏、日本キリスト敎會の牧師佐々木氏浸禮敎會の牧師、及び高等農業學校青年會の佐藤氏等と益富氏の旅館で廓淸會の事に付いて話しをした。こゝにも不日この運動を開始する下地だけで出來た者と見てもいゝ。

仙臺でも集會を開く迄には至らなかつたが益富氏は日本キリスト敎會の牧師萩原氏東北學院の敎授笹尾博士出村博士を訪ひ今後一臂の助力を賴んだ。

殊に東北學院のファースト博士は、かう云ふやうな社會問題に關しては頗る熱心で以前より研究を積んで居られるのでそう云ふ關係から午時ファースト氏から晝餐の馳走にあづかり、廓淸會の現狀及び將來の希望について述ぶる處あり、同博士は極力此運動に後援を與へると誓はれた。それから婦人矯風會の平林女史にも會つた。さればこの地に廓淸會の支部を置くやうになるのも遠い事ではあるまいと思ふ。

▲名古屋市に於ける運動

十一月三十日、安部副會長は名古屋基督青年會の催ほしに係る演說會に臨み約二時間に亘り、公娼廢止論を試み、偉大なる聽衆の感動を贏ふて歸京された。

會員の奮鬪（來翰一束）

東京十字社 江尻町出張所

去る十月廿二日當所主任矢崎喜三郎氏は、事務員秋山健次郎同齋藤秀太郎の二名と共に靜岡縣富士郡大宮町に出張、廓清會々員の募集をなし、同夜同町内路傍に於て公娼廢止の必要を說き、後各貸座敷を訪問して別紙娼妓の福音と題する印刷物(茲には省略す)を各娼妓に配付して引揚げたり。右運動の結果、同町深本樓娼妓(茨城縣生)奴(二七)は三百三十五圓の借財を殘して本月一日自廢の手續をなし、同時に當所に宛左の如き信書を郵送し來れり。

文して申上候。さてとや夜は結構なる福音書御送り下され、誠に難有御禮申上候。實は私も毎日泣いて日を送り此行末は如何せんとしあんにくれ居候折ゆゑ地獄で佛と喜んでいくたびとなくくりかへし、遂に心を定め今日か明日かと思ひめぐらすうち、妓夫太郎の杉本貞造といふが、私によくない事をしたのを幸ひに、警察へ出て廢業いたしましたが、此行末何分よろしく御力ぞへ下され度御願申上參らせ候かしく

もと　奴　より

東京十字社江尻町出張所樣

去る十月十五日午後七時より當所主任矢崎喜三郎氏は、安倍郡清水町入江受新田青年會の招待を受けて出張し、同町櫻井金吾方に於て「花柳病と青年」と題する講話を爲し、了りて廓清會に入會を勸めたる結果別紙入會申込書の如く加盟者有之候間、此段及報告候也

追て縣下各方面に向つて運動上必要に候間、本月御發行の雜誌二三十部御惠送相成度奉希候。

水戸　萩谷　寛氏

昨日端書を以て、當市在菅谷青年會へ御出張御講演の件は是非御聽屆被下度、實は那珂郡長始め、警察署長、村長、其他有志の意氣込頗る盛にて、青年會員をば全部廓清會になすとの事にて兎に角數百名の來會者なれば、是非々々希望に任せ度候に付、島田先生へも可然御取成方願上候。

矢板クリスチヤン教會　村岡　章氏

神恩の下に貴殿益々御壯健に社會矯正の爲めに御奮鬪被遊候段欣賀至極に奉存候。偖御繁用中誠に恐縮の至りに候が、當地矯風に就て御意を煩はし度候。當町は僅に四五千の人口を有する小邑に候も、遊廓五、怪しき酒亭五、藝妓屋二。有之、藝娼妓酌婦數十名も有之、最も驚入る事は妾宅の三四十も有之事に候。以上を以て如何に淫風の同町に充溢し居るか御賢察の事と存候。小生本年一月當地に參り傳道致し居り候も町民は敬遠主義を採りし近寄らず、(一般町民は耶蘇教を毛嫌致し居る故)候。此際是非貴會の御助勢を願ひ、會員を募り、漸次貴會の支部を設置致し度き所存に候。就ては貴會の趣意書並に役員の芳名を知らする必要有之候に付、會員勸誘の手引となるもの又は入會申込書等御所有に候はば御惠送被下度御願申上候。先は非禮をも顧みず右申進候。恐惶謹言

和歌山　河野　道氏

毎々廓清の御送付奉多謝候、就ては本月分より四十部御送付被下度、既に二十部は御送付有之候間、今二十部御送付奉願上候。代價は十二月に取纏め御送金申上候。來春早々大阪の助力を得て演說會相催し度と存居候。來る一月よりは通信員も作り度と存居候。何卒今二十部至急御送付を願上候、草々。

靜岡縣氣賀町　宮下　新一氏

第一信

氣賀町にては二十五日午後二時より鵜崎理事の「大正の青年に望む」の演題にて、一時間半の講演有之、會衆八十五名有之候。氣賀町にては夜の方會衆多きも教會の方の都合によつて晝に致し、會衆の少きが小生の實に心細く。又會衆の七分は醜業者なりしは實に神のなし給ふ處の業と深く感謝仕候。翌日は雨降り夕に至るも歇まず大雨の中を本會々友小出永田兩兄と共に物ともせず鵜崎理事の後を走り三ケ日町に着し、會場なる共榮座につき、準備する内會衆は五百五十に相成り、小川傳道師(青山學院出の人で、嘗て本會に入つて働かんとせられしも身體虛弱の爲め氣賀地方に來られし青年傳道師)の開會の辭について、波多野先生起ち、次に鵜崎先生登壇、青年の墮落を誡しめられ、多大の感動を與へて閉會したるが、それが爲にさしも跋扈致し居り候ひし醜業界も、寂として三絃の音も無之、此機をはづさず、益々廓清運動を努めなば積年の淫風を一掃する事遂し易かるべく候。

又其翌朝、朝食をすまして講義所を出で趣意書を知

人に渡し色々話し居る處に、醜業者來りて議論する事少時にして彼は逃げ歸れり。また一人の者は大に贊成して近日救ひを受けらる丶由聞き及び候。此會は實に有益にすみし事を深く神に謝し、日每夜每本會の日增夜增に盛大ならん事を祈つ丶今日も廓淸運動致し居候。何を申すも無學の徒故本部の助力を待ち居候。

第二信

昨日三ケ日町地方に先日鵜崎理事殿の廓淸會趣意講演の反響を見來り候處、過日鵜崎理事殿來られ話されし時に反對せし人昨日あたりは最早神の存在を認め悔改め、キリスト信徒と相成り度しとの事、實に神の慈愛の偉大なるに信仰の度を高め申候。又三ケ日地方の靑年にして智識あるものは皆先生の話を善として少しづ丶善道に向ひつ丶有之、實に當出張所は日一日と榮え、神の御守りの内に會友の德操を淸めつ丶、人格を作りつ丶有之候間御安心被下度、本部諸員の奮勵を望み申候。又其反對の者來る十七日氣賀敎會三ケ日講義所にて洗禮を受けらる丶由、本會々友も應援して彼の地の人心を救ひ、敎會と共に靑年の墮落を廓淸する心に候へば、何卒微々たる出張所に候へ共御見捨なからん事希望仕候。當氣賀町及三ケ日町に本部の出張を至急致され度、當敎會諸兄また會友も皆々希望致し候間、當地の有樣鵜崎理事殿より御聞き被下至急出張人心の廓淸に努められん事願上候。明日は又三ケ日地方に出張して近況を通信仕可く候。

第三信

拜啓本日別紙の如き趣意書を認め（記者曰「起てよ靑年亡國の民となる勿れ」と題する同君の論文を印刷したるもの封入しありたるも。餘り長くなる故玆に省略す）三ケ日地方に活動に行き申候。

第四信

一昨日本部敎育會有之、其會議の中に廓淸問題有之敎育家少しづ丶子弟の墮落を匡止豫防する事に覺醒致し來りたる樣に候。殊に本町高等小學校長柳瀨三代藏氏より禮狀參り候。別紙御揭載相成度候。又氣賀町は愚生の活動によりて目を開き出し、誠に廓淸會の世に益する所は多大に有之、人々も感謝しつ丶有之候。尚自由廢業の手續に付御敎授被下度、小生初めてにて相分らず實に困り居申候。大至急御返信願上候。

拜啓、今朝は雜誌一部御寄贈を蒙り深く奉感謝候。廓淸眞に其題の如く滔々たる世態、奢侈淫靡の甚しき時、誠に空谷の跫音に存じ候。是非風敎の爲に御盡瘁の程奉願候。乍不及小生も微力を盡すべく候。先は御禮旁々右申上候。草々敬具

十一月二十一日　柳瀨　三代藏拜

宮下新一樣

福島縣湯本小野田炭坑　福田　照治氏

拜啓、當所は勞働者四千人を使役して居る大會社にして、自然男女の關係も亂れ居候、就ては人道の爲め御主義を廣め度、廓淸の必要有之候間大に會員か募り度覺悟に有之、何分の御援助願上候。

門司市榮町四池出方　福島　武吉氏

謹啓、每々貴會より御送附被下し誌上の一言一句常に吾等の胸裡を刺激し此運動の一日も緩かにすべからざるを感ずる事切實に有之候。小生も無學文盲なる者と雖、此儀を快として常に會員募集に努むるも如何せん身分なく學識なき一靑年の、多く有位者に接する機會少く候。されど幸にして神は此正義の僕を見捨てず、去月門司市に救世軍小隊を開かしめ、第一に此が兵士を志し此野戰の終りを利用し、本會の主趣及び目的を公表するの機會に接し居候。當地は開港場にして出入船舶、或は石炭仲居を業とせる無賴漢多かれ共、彼等も既に婦人の貞操如何を知り、路傍演說を熱心に聞き申候。早晩吾等が一大快事を決行する時期の來るべきを信じ得べく候。或時は本會發行の廓淸を樓主に送りて、樓主より迫害せられ警察の手數を煩はしたる事も有之候。其樓主曰く「我等は其女か一家の苦貧を一人にて擔ひ、他の家族を救ふ爲に自ら苦界に沈む、因て保護する義務あり」と、然れども事實は相反せり。又料理屋の酌婦に貞操の道德を敎へ、婦人が只々虛榮にのみ憧がれ、安逸をのみ貪り、其尊き操を泥土に委する事の醜惡惜むべきを語りたるに、彼は潸然として悔悟し、翌月限り廢業し原籍熊本縣三角に歸り申候。右一寸御通信迄。

在京都　風馳　生氏

貴會日々御隆盛奉賀候、廢娼思想も現今靑年者は過半數我等と意見の一致を見て、廓淸運動に志し候爲か、近來當地遊廓は各樓共淋びしく、益々運動の好時季とも存じ居り候。之れ皆貴會の御盡力に依る處と存候。我々も層一層獻身的廢娼運動に從事仕るべく候。左記二名は當地方に於ける最近の自由廢業に有之、苦心の結果聞き込みたるものにて、御參考迄申上候。

本籍　岡山縣邑久郡手窓町二三二五番地
當時　岡山市東中島町四三番地楷村直次方抱娼妓
岡崎加津　明治廿二年七月生

右、十一月六日病氣の故を以て、前借金百四圓不拂の儘自由廢業

本籍　岐阜縣海津郡今尾町大字今尾六二豐吉五女
當時　岐阜市金津廓大門通字野後四郎方娼妓朝日事
赤尾うめ　明治廿二年六月生

右、十一月六日病氣の故を以て前借金四百九十圓不拂の儘自由廢業(十一月十二日)

第二信

昨十二日御報申上置候處、只今左の如く又々岡山遊廓の席主逃走行衞不明の報に接し候間追報申上候

本籍　廣島縣安佐郡川内村字温井一七八
當時　岡山市大字東中島町二七五闘亦一郎方抱娼妓
宮崎ワサ　明治十九年十月生

右娼妓稼業中の處、病氣の爲療養中抱主逃去行衞不明の爲十一月十日自由廢業、但前借金は本人と抱主と對談せざれば判明せずとの事

第七高等學校　調　武男氏

謹啓、日に月に廓清の聲高く、本會の主張も着々實現の道を辿り、實に此上もなき欣喜に御座候、これも諸先輩の御盡力の結果にて、我輩の感謝の至りに御座候。此上とても益々主義の爲め、主張の爲め十二分の御獻身願上候。我等も何れ社會の上に立つに至らば諸先輩の跡を繼ぎ、此主張の爲め不肖も努力可致候。如何なる方面にても後顧の憂なしと思召し折角御奮闘願上候。猶寒氣相迎ふべく御座候條御自愛も亦專一に願入候。頓首

神田和泉町　渡邊　精次氏

拜啓、私儀去る六月中廓清會の總會に出席仕り、其折貴會より運動用として澤山の「廓清」を頂戴いたし、歸國後廓清會々員として必ず其目的を達する樣、鞏固なる意志を以て、同志の士と活動致居候。私共將來必ず其目的を達せずんば止まざる決心に御座候間、追々まきたる種の芽萠え出でん事必定と存候。要するに我等の前途には皎々たる一道の光明の點ぜられあり候。何れ詳報は拜趨の上萬々可申述候。敬具

本郷西竹町東陽館　田中　正實氏

前略新紙傳ふる處に依れば、今日早稻田大學生の組織する丁未倶樂部發起となり、全國學生を糾合し堂々たる公娼廢止運動を開始致候趣、我等の「廓清會」以外別に此擧あるに至りしは、如何に我等が時の熱し來れるかを明に告知するものにして、血湧き肉躍り欣喜雀躍せざるを得ざるは眞に此事なりと存候。現代の廣き社會上に大なる原動力の一たる新聞紙に於て、漸く公娼若くは私娼問題の提出せられ論評せられ、以て關係する處の記事の尠からざるを見るに至り、早大學生過般來の運動の如き世の視線を此問題に向つて惹かしむるものあり、而して引續き公娼地の水火の災厄に惱まされたる印象の未だ消去らざる此秋、況んや改元の劈頭人心自ら新しき Open mind を以てする此時此際に方り、我等會員たる者全國各地に於て更に蹶然奮起し旗鼓堂々敵の牙城に肉迫し一擧にして之を屠り、然る後年來の宿望目的の貫徹せられたる祝盃を擧げ得られん事は、强ち夢想にして止まるべきもの歟、否々小生は是非とも力を盡して敢て夢想に止まらしめざらしむべきものと存候。就ては此千載一遇とも云ふべき時、逸去すれば再び來る事の測り難き此機會に於て、定めし御胸奧には神籌鬼策の抱藏せらるゝあらんが、具體的に如何なる御意向有之候や、簡單にても宜敷ければ御洩し被下度願上候。小生の周圍には或は冷笑視し、或は批難する者すら有之候へども、大に鼻を明かしてやり痛快を叫び度欲する者に御座候。思へば賴母しき哉、嬉しき哉、早大學生の檄を飛ばすあり軈て日本全土に正義公明廓清の鬨の聲を揚ぐる日の近からんを待の事を得べき事や、此際千金の御身國家風教の爲に折角御加餐あらせられ度候。元より小生としては一個の理想主義に有之、其爲めには犧牲たるを辭せざる覺悟に御座候。敬具

福井縣遠敷郡遠敷　柴崎　俊吉氏

今春來當小濱に於て廓清を以て念とせる一の青年會組織され、毎月二回の集會有之、小生も近頃時々之に參會仕り候て我が廓清會の本旨を述べ、且つ同雜誌を會員一同に貸與せし處、實に滿腔の誠意を以て入會を望み昨夜の集會に於て愈々東京の本部に入會書送りくれとの話しに相成り申候に付、何卒福井縣小濱町日袋町眞友會として正會員名籍に御記入被下度候。

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）（大正元年十二月十五日發行）

廓　清　復刻版　全33冊

1980年6月30日　一揃定価30万円

発行者　北　村　正　光

発行所　株式会社　龍　溪　書　舎

〒101　東京都千代田区神田小川町3-28-7
電話　03(233)0441(代)・振替東京3-76123

印刷・製本　日本プリントセンター